

第54回全国水道研究発表会講演集

平成15年 於名古屋市

社団法人 日本水道協会

第54回全国水道研究発表会日程

期 日 平成15年 5月14日（水）・15日（木）・16日（金）

会 場 名古屋国際会議場

名古屋市中熱田区熱田西町1番1号 電話（052）683-7711

〔開催期間中の開催地臨時電話兼ファックス（052）682-9052〕

〔開催期間中の日水協臨時電話兼ファックス（052）682-9051〕

日 程

初 日 平成15年 5月14日（水） 受付開始 8時40分

1. 開 会 式 センチュリーホール
9時40分～9時50分

2. 水道フォーラム センチュリーホール
10時～12時

3. 研 究 発 表 第一会場 1号館4階 141～142会議室
12時45分～17時10分
第二会場 1号館3階 131～134会議室
12時45分～16時25分
第三会場 4号館3階 431～432会議室
12時45分～16時40分
第四会場 2号館2階 224会議室
12時45分～16時40分
第五会場 2号館3階 234会議室
12時45分～16時55分
第六会場 2号館3階 232～233会議室
12時45分～17時10分

4. 懇 親 会 白鳥ホール
18時～

2日目 平成15年 5月15日（木）

1. 研 究 発 表 第一会場～第六会場 9時～17時30分

3日目 平成15年 5月16日（金）

1. 研 究 発 表 第一会場～第六会場 9時～12時10分

〔水道フォーラム〕

日 時 初 日 平成15年 5月14日（水） 10時～12時

会 場 センチュリーホール

題 名 水道の未来を語ろう「ISOによる水道業務の標準化を考える」
—国民に信頼される水道サービスを—

講 師 ISO/TC224下水道国内対策協議会委員長（株）西原技術顧問 京 才 俊 則
ISO/TC224ワーキンググループ3部会長（株）荏原製作所 B/A 推進室部長 吉 村 和 就
名古屋市上下水道局水道本部水道建設部長 長 坂 勉
ISO/TC224上水道対策パネル代表（北海道大学大学院教授） 眞 柄 泰 基

司 会 日本水道協会水道技術総合研究所長 石 井 健 睿

目 次

研究発表

1. 事 務 部 門

題 名	勤 務 先	発 表 者	頁
(1-1) 千葉県営水道事業の経営分析（Ⅰ） —総合的な分析—	千葉県水道局	渡 辺 一 夫	(2)
(1-2) 千葉県営水道事業の経営分析（Ⅱ） —鉛給水管単独更新事業の経営への影響に関する考察—	千葉県水道局	荒 井 一	(4)
(1-3) 府営水道における自己資本の充実	大阪府水道部	港 陽 治	(6)
(1-4) 簡易水道事業のケーススタディによる分析結果	水道技術研究センター	有 吉 寛 記	(8)
(1-5) 淡路島における水道事業の一元化	淡路広域水道企業団	坂 本 敦 司	(10)
(1-6) ベイオフ解禁と資金運用	大阪市水道局	小 林 元 彦	(12)
(1-7) 水道事業者間における広域的な水融通のあり方	東京都水道局	伊 藤 正 則	(14)
(1-8) これからの社会基盤施設としての水道施設整備（Ⅲ） —事業コンベ方式による浄水池上部空間の有効活用（2）—	阪神水道企業団	小 川 康 之	(16)
(1-9) 設計施工一括発注・総合評価落札方式による配水池 築造工事	岡山市水道局	石 井 恒 至	(18)
(1-10) 東京都水道局環境会計についての考察	東京都水道局	山 田 朋 美	(20)
(1-11) 自治体水源税構想	横浜市水道局	星 名 純 子	(22)
(1-12) 局内 LAN システムの導入	広島市水道局	漆 谷 美 徳	(24)
(1-13) 水道局情報ネットワークシステム構築 —マッピングシステムを利用した高信頼・高利便性 ネットワーク構築—	秋田市水道局	若 狭 謙 栄	(26)
(1-14) 未納料金対策 —料金収入確保のために—	東京都水道局	田 代 正 広	(28)
(1-15) 滞納整理業務の民間（法人）委託における現状と課題	横須賀市水道局	深 見 大 輔	(30)
(1-16) 新しい VSP 方式システムによる徴収業務の広域処理	第一環境	種 本 廣 之	(32)
(1-17) 生活に密着したお客様サービスの提供を目指して	東京都水道局	有 原 正 俊	(34)
(1-18) 水道事業における損害賠償の考え方	大阪市水道局	片 岡 誠 司	(36)
(1-19) 貯水槽水道への関与	横浜市水道局	二 見 友 久	(38)
(1-20) 水道事業における顧客情報と公文書開示制度	東京都水道局	長 谷 和 美	(40)
(1-21) 横浜市水道局インフォメーションセンターの設立	横浜市水道局	平 沼 正 博	(42)
(1-22) ホームページを活用した広報「バーチャル浄水場」	大阪府水道部	増 田 哲 也	(44)
(1-23) 名古屋市における木曽川上下流交流事業	名古屋市上下水道局	大 崎 陽 子	(46)
(1-24) 「お客様サービス」意識向上のために「研修」が果たす役割	名古屋市上下水道局	田 中 正 哉	(48)

2. 計 画 部 門

(2-1) 将来推計人口の変更に伴う水道事業計画の見直し	札幌市水道局	森 尚 人	(52)
(2-2) GIS 土地利用情報を用いた配水ブロック別水需要予測手法の検討	管 総 研	横 尾 真 子	(54)
(2-3) 使用目的別水量実測からみた時間変動特性の将来予測	立命館大学	吉 村 敬 介	(56)

	題 名	勤 務 先	発 表 者	頁
(2-4)	生活用原単位予測のためのアンケート調査結果報告	千葉県水道局	幡谷 繁	(58)
(2-5)	一般家庭における用途別水使用量(Ⅲ)	大阪市水道局	山西 修	(60)
(2-6)	生活用原単位と年齢別人口構成との相関に関する一考察	神奈川県企業庁水道局	若林 広晃	(62)
(2-7)	同一家庭の生活構造変化と水需要特性の把握	立命館大学	佐伯 健	(64)
(2-8)	維持管理政策に着目した水道システムの改善効果の計測モデル	鳥取大学	廣瀬 友和	(66)
(2-9)	神戸水道の耐震化事業における費用対効果	神戸市水道局	光平 真紀	(68)
(2-10)	浄水施設の機能診断手法の開発とその応用	水道技術研究センター	西川 佳弘	(70)
(2-11)	大阪府水道事業将来構想	大阪府水道部	大木 誠	(72)
(2-12)	大阪府管水エネルギー利用の計画事例	岸和田市水道局	橋本 光義	(74)
(2-13)	受水圧力を利用した小水力発電設備の導入	岸和田市水道局	平野 豊	(76)
(2-14)	水道施設の有効利用(サクシュコトニ川復元への利用)	札幌市水道局	及川 公志	(78)
(2-15)	綾瀬浄水場外周整備におけるPC壁体の設計	神奈川県内 広域水道企業団	杉山 桂	(80)
(2-16)	布引ダム堤体補強工事における水源と景観の保全	神戸市水道局	松田 康孝	(82)
(2-17)	浄水場構造物に対する膨張コンクリートの適用事例 —コンクリートのひび割れ抑制効果実証試験—	奈良県水道局	久世 正一	(84)
(2-18)	水道分野における廃棄物等の発生量と再利用の実態調査	水道技術研究センター	岸 俊幸	(86)
(2-19)	上下水道施設と病原微生物感染リスクの関連	日本上下水道設計	岩竹 貴則	(88)
(2-20)	ISO14001規格に基づく環境マネジメントシステムの構築	岡山市水道局	西井 保	(90)
(2-21)	利用者の水道水摂取傾向に与える水源の影響	武蔵工業大学	長岡 裕	(92)

3. 水源・取水部門

(3-1)	水道水源でのアウトドアスポーツへの対応 —「水道水源での水質汚染のおそれのある行為などへの対応指針」の制定—	札幌市水道局	萩原 民雄	(96)
(3-2)	雨水利用と水源開発	名古屋市上下水道局	高倉 俊夫	(98)
(3-3)	水源ダムの循環曝気能力の低下に伴う水質への影響	東京都立大学	山崎 公子	(100)
(3-4)	ダム湖におけるシネドラアクス発生	君津広域水道企業団	土屋 博一	(102)
(3-5)	河川表流水質の将来予測 —市川水系—	姫路工業大学	村上 光正	(104)
(3-6)	淀川流域環境マップの作成	大阪府水道部	小笠原 和雄	(106)
(3-7)	高強度な鉄筋を使用した沈砂地の検討	千葉県水道局	高田 大輔	(108)
(3-8)	海底下への長距離推進施工	機動建設工業	北島 邦浩	(110)
(3-9)	水源水質悪化時の取水制御システム	三菱電機	古川 誠司	(112)
(3-10)	取水停止時の運用計画	神奈川県内 広域水道企業団	海野 義明	(114)

4. 浄水部門

(4-1)	新鉄系凝集剤ポリ塩化第二鉄(PFC)の開発(Ⅰ) —パイロットプラント実験結果—	特別会 員	浦野 陽	(118)
(4-2)	無機凝集剤による天然有機物の凝集処理特性	岐阜大学	星野 博司	(120)
(4-3)	ポリシリカ鉄凝集剤(PSI)の実施設への適用	水道機 工	亀田 修平	(122)
(4-4)	PSIに適する凝集処理条件の検討	北海道大学	大野 浩一	(124)

	題 名	勤 務 先	発 表 者	頁
(4-5)	鉄系凝集剤 PSI による濁質の凝集沈殿及び汚過処理の高効率化	北見工業大学	水森 豊	(126)
(4-6)	鉄系凝集剤に関する浄水及び排水処理実験	東京都水道局	尾高 康治	(128)
(4-7)	流動電流測定法による凝集剤自動注入制御実験(Ⅰ) —濁度と色度変化の対応—	美幌町建設水道部	澤 昌雅俊	(130)
(4-8)	流動電流測定法による凝集剤自動注入制御実験(Ⅱ) —流量変化への対応—	西原ウォーターテック	竹野 義嗣	(132)
(4-9)	粒子カウンタを用いた凝集沈殿制御システムの構築(Ⅲ)	横河電機	森 意佐央	(134)
(4-10)	操作量としてのフロック形成池の攪拌強度に関する実験	富士電機	吉田 孝次	(136)
(4-11)	凝集沈殿処理における濁度・色度除去とコロイド荷電量との関係についての研究	北海道大学	江端 克明	(138)
(4-12)	低濁度原水における低濃度凝集剤の注入効果	仙台市水道局	山田 秀樹	(140)
(4-13)	凝集剤注入点の変更による凝集効果の改善	北九州市水道局	江藤 孝義	(142)
(4-14)	急速攪拌 G _R 値及び T _R 値の適正化による低温濁水の処理性改善	北見工業大学	山本 暁	(144)
(4-15)	酸注入における浄水効果	神奈川県内 広域水道企業団	飯島 達也	(146)
(4-16)	硫酸注入による原水 pH 調整	明電舎	関 竜也	(148)
(4-17)	フロック形成攪拌方式の効率化に関する調査(Ⅰ) —噴流攪拌固液分離装置(JMS)による処理性検討—	大阪市水道局	瀧 川典一	(150)
(4-18)	フロック形成攪拌方式の効率化に関する調査(Ⅱ) —噴流攪拌固液分離装置(JMS)の流体解析—	クボタ	榊原 孝志	(152)
(4-19)	横流式沈殿池の数値シミュレーション —濁質粒子密度の影響—	武蔵工業大学	内村 伸久	(154)
(4-20)	濁度変動を伴う原水に対する大孔径膜の運転性能と実施設の運転報告	水道機 工	長屋 光広	(156)
(4-21)	大容量 MF 膜汚過設備の運転状況	水道機 工	古屋 弘幸	(158)
(4-22)	浄水処理後段におけるセラミック膜の適用性の検討	日本ガイシ	金谷 新志郎	(160)
(4-23)	新しいケーシング収納方式セラミック膜による浄水処理	クボタ	北川 雅之	(162)
(4-24)	大容量 UF 膜を用いた膜汚過運転の検討	神鋼パンテック	長谷川 雅宏	(164)
(4-25)	大規模浄水場への大型膜ユニット/システムの適用に関する研究	三菱レイヨン	竹田 哲	(166)
(4-26)	高フラックス型 UF 膜による膜利用型浄水設備の高効率化	新日本製鐵	辻本 渉	(168)
(4-27)	藻類による膜汚染とその対策の検討	前澤工業	大久保 慎二	(170)
(4-28)	UF 膜汚過設備の高流動化とコスト低減効果	前澤工業	山西 陽介	(172)
(4-29)	高透水性 UF 膜モジュールの開発	栗田工業	松溪 直樹	(174)
(4-30)	マンガン汚染膜の高速薬品洗浄方法の探索	荏原製作所	貝谷 吉英	(176)
(4-31)	前凝集沈殿とオゾン酸化によるオゾン耐性膜での膜運転性及び透過水水質向上に関する研究	北海道大学	李 相協	(178)
(4-32)	オゾン耐性膜による高効率高度処理(Ⅵ)	旭化成	橋野 昌年	(180)
(4-33)	中間オゾン・活性炭流動層システムへの膜処理技術の適用に関する調査(Ⅱ) —実施設化に向けた前提条件の整理—	阪神水道企業団	村上 恵一	(182)
(4-34)	越生町膜汚過施設薬品洗浄結果報告	栗田工業	太田 喜興	(184)
(4-35)	全量汚過方式における膜破断検知実験	特別会 員	山口 太秀	(186)
(4-36)	膜破断検出装置の実機稼働報告	東芝	村山 清一	(188)
(4-37)	ナノ汚過における微量化学物質の吸着・溶出過程の解析	八戸工業大学	鈴木 拓也	(190)
(4-38)	ナノ汚過によるアンチモン処理に及ぼす共存物質の影響	国立保健医療科学院	黒木 隆	(192)

題 名	勤 務 先	発 表 者	頁
(4-39) 晶析軟化法を前処理とした低圧逆浸透膜による浄水処理	西原環境テクノロジー	田 中 宏 樹	(194)
(4-40) 湖水を水源とする高度浄水処理	理 水 化 学	中 村 陽 一	(196)
(4-41) かん水を原水とする浄水処理システムの検討 (Ⅰ) ー前処理装置の運転状況ー	オ ル ガ ノ	宮ノ下 友 明	(198)
(4-42) かん水を原水とする浄水処理システムの検討 (Ⅱ) ー逆浸透法と電気透析法の比較ー	オ ル ガ ノ	若 林 和 幸	(200)
(4-43) 柏井浄水場排水処理施設の更新	千葉県水道局	宮 崎 勇 悦	(202)
(4-44) 西長沢浄水場排水処理運転実績報告	神奈川県内 広域水道企業団	森 崇 裕	(204)
(4-45) 超高速凝集沈澱装置による膜逆洗排水処理及び汚泥濃縮実験	オ ル ガ ノ	鳥 羽 裕一郎	(206)
(4-46) 高分子凝集剤を用いた凝集沈澱汚泥の膜濃縮法に関する検討	日立プラント建設	大 西 真 人	(208)
(4-47) 凍結融解脱水への CGS 排熱利用冷凍機の適用検討	富 士 電 機	山 口 幹 昌	(210)
(4-48) 浄水発生土のリン酸吸着に関する基礎的検討 (Ⅱ)	荏 原 製 作 所	野 村 淳 一	(212)
(4-49) 浄水発生土の下水処理プロセスへの適用とリン除去効果に関する一考察	東 京 都 立 大 学	荒 井 康 裕	(214)
(4-50) 排水処理の一括集約処理	京 都 市 水 道 局	片 山 勅 男	(216)
(4-51) 浄水発生汚泥再利用に関する調査	八 戸 圏 域 水 道 企 業 団	内 宮 靖 隆	(218)
(4-52) 水熱合成反応による浄水発生土からのゼオライト製造法の基礎検討	日 立 製 作 所	芳 賀 鉄 郎	(220)
(4-53) 浄水場発生土の水熱固化試験	石 垣	西 原 康 昭	(222)
(4-54) 浄水ケーキを用いた林道法面の緑化	東 京 都 水 道 局	佐 藤 一 昭	(224)
(4-55) 見崎浄水場における生物活性炭処理	山 形 市 水 道 部	板 坂 久 美 子	(226)
(4-56) 生物活性炭汚過による有機物除去効果	三 機 工 業	柴 田 一 栄	(228)
(4-57) 本城浄水場に導入した生物接触汚過施設の運用	北 九 州 市 水 道 局	山 崎 千 寿	(230)
(4-58) 北郡山浄水場生物接触汚過施設の概要	大 和 郡 山 市 水 道 局	南 恭 史	(232)
(4-59) 生物接触汚過実施施設の充填汚材の調査結果	JFE エンジニアリング	湖 上 浩 司	(234)
(4-60) オゾン処理における二酸化塩素の効果	茨 城 県 企 業 局	石 崎 孝 幸	(236)
(4-61) 高度浄水処理における臭素酸イオンの生成制御方法	大 阪 市 水 道 局	平 林 達 也	(238)
(4-62) オゾン・BAC 処理における弱前塩素処理の影響	北 千 葉 広 域 水 道 企 業 団	杉 寄 隆 弘	(240)
(4-63) オゾン処理施設における臭素酸イオン等の調査	沖 縄 県 企 業 局	仲 地 健 次	(242)
(4-64) 水道原水における 2-MIB のオゾン処理、促進酸化処理特性	富 士 電 機	加 藤 康 弘	(244)
(4-65) フミン質の分子量及び分解性が THMFP に与える影響	東 海 大 学	林 禾	(246)
(4-66) 蛍光スペクトル解析を用いた THM 生成におけるフミン質の分子量の影響	東 海 大 学	五 味 靖	(248)
(4-67) オゾン処理におけるオゾン適正注入率の検討	沖 縄 県 企 業 局	金 城 麻 希	(250)
(4-68) 猪名川浄水場オゾン処理施設における溶存オゾンの挙動	阪 神 水 道 企 業 団	大 谷 真 巳	(252)
(4-69) 常用自家発電設備排熱による排オゾン処理の調査研究	東 京 都 水 道 局	奥 村 一 雄	(254)
(4-70) 水道原水への油流入事故を想定した粉末活性炭処理に関する検討	荏 原 製 作 所	神 宮 美 香	(256)
(4-71) ノニルフェノールエトキシレートの活性炭による競合吸着特性	岐 阜 大 学	衣 斐 武 宣	(258)
(4-72) カビ臭原因物質に対する取水場での前々塩素処理と前凝集の効果	北 九 州 市 水 道 局	原 口 公 子	(260)
(4-73) 凝集剤によるヒ素の処理特性	日 水 コ ン	岸 野 加 州	(262)
(4-74) 流動床式晶析軟化法による硬度低減	宮 古 島 上 水 道 企 業 団	嘉 島 常 夫	(264)
(4-75) 白金電極を用いた消毒システム開発	東 京 農 工 大 学	子 安 真 吾	(266)
(4-76) ゼオライトによる吸着と次亜ハロゲン酸による脱窒を利用したアンモニア処理技術	三 菱 電 機	長谷川 佳 孝	(268)

題 名	勤 務 先	発 表 者	頁
(4-77) 酸化チタンを用いた太陽光光分解法の浄水処理への応用 (Ⅲ)	北九州市環境科学研究所	奥 村 裕 司	(270)
(4-78) 六甲山湧水とウラン酸処理施設	神 戸 市 水 道 局	鈴 木 勉	(272)
(4-79) 風送塩が浄水処理に与える影響調査	沖 縄 県 企 業 局	塩 川 敦 司	(274)
(4-80) 簡便なトリハロメタン予測式の構築手法とその応用例	新 潟 市 水 道 局	川 瀬 悦 郎	(276)
(4-81) シネドラアクスによる汚過閉塞	君 津 広 域 水 道 企 業 団	林 豊	(278)
(4-82) 浄水処理維持管理における生物障害の評価ガイドライン作成のための基礎的研究 (Ⅱ) ー珪藻類 <i>Synedra acus</i> を用いた汚過閉塞障害のモデル解析ー	名古屋市上下水道局	山 下 和 雄	(280)
(4-83) 既設の急速汚過池の高効率化を目的とした汚過実験	近 畿 大 学	小 池 浩 哲	(282)
(4-84) 複層汚過池における高効率汚過の実証	横 浜 市 水 道 局	松 川 悟	(284)
(4-85) 高分子凝集剤等を使用した浄水処理実証実験 (Ⅲ)	荏 原 製 作 所	安 永 利 幸	(286)
(4-86) 低濁度原水を対象とした直接汚過法による浄水処理実験	静 岡 市 水 道 局	赤 星 順 一	(288)
(4-87) 低濁水の直接汚過における粒子分離の高効率化	北 見 工 業 大 学	山 田 直 之	(290)
(4-88) 低速スタート汚過法による低濁原水処理の効率化	北 見 工 業 大 学	張 一 憲	(292)
(4-89) 尼崎浄水場における汚過施設の稼働状況	阪 神 水 道 企 業 団	浅 谷 孔 一	(294)
(4-90) 上水試験用微粒子計の検出方式に関する標準化の検討	リ オ ン	西 本 道 伸	(296)
(4-91) 微粒子計による粒子数計測の際の可測濃度上限値	東 北 工 業 大 学	長 尾 崇 史	(298)
(4-92) マンガン砂による有害金属の除去効果	東 京 都 水 道 局	谷 道 裕 司	(300)
(4-93) マンガン砂のヒ素吸着能力に関する基礎研究	北 海 道 大 学	林 健 司	(302)
(4-94) 砂汚過池における溶存マンガン除去	大 阪 府 水 道 部	中 尾 信 弘	(304)
(4-95) 鉄バクテリアを利用した自然汚過方式による地下水の処理	神 鋼 パ ン テ ッ ク	森 藤 昭 博	(306)
(4-96) 緩速汚過池を本来の生物処理に	高 松 市 水 道 局	池 添 幸 男	(308)
(4-97) 長毛汚布汚過機の上水処理への適用	呉 羽 テ ク ノ エ ン ジ	白 土 晶 浩	(310)
(4-98) 湖沼水処理におけるハイブリッドバネフィルター汚過法の特性解析	千 葉 工 業 大 学	村 上 和 仁	(312)
(4-99) メタルハニカムフィルターを用いた微小生物捕捉	新 日 本 製 鐵	木 村 春 男	(314)
(4-100) 金属吸着能を有する藻類由来有機物 (Algal Organic Matter: AOM) の分離に関する研究	東 北 大 学	高 荒 智 子	(316)
(4-101) <i>Phormidium tenue</i> の各活性段階における攪拌強度 (G 値) による形状変化	東 北 工 業 大 学	佐 藤 正 浩	(318)
(4-102) 塩素処理が藻類の沈降速度に与える影響	東 北 工 業 大 学	鷲 出 貴	(320)

5. 導・送・配水部門

(5-1) 山形市における総合水運用管理システム	山 形 市 水 道 部	高 橋 孝 治	(324)
(5-2) 統轄的配水池運用システムの導入	東 京 都 水 道 局	松 葉 香 奈	(326)
(5-3) 送水エネルギー有効利用による低コスト配水コントロール	岸 和 田 市 水 道 局	山 川 茂 明	(328)
(5-4) 省エネルギーを目指した配水圧力制御システム	福 山 市 水 道 局	半 田 裕 貴	(330)
(5-5) 濁水時の管網解析と減圧給水制御シミュレーション	日 立 製 作 所	福 本 恭	(332)
(5-6) SCE-UA 法を用いた配水管網のバルブによる最適圧力制御に関する考察	九 州 大 学	久 野 祐 輔	(334)
(5-7) Simplex 法による配水管網時間係数の同定	武 蔵 工 業 大 学	早 川 雄 一 朗	(336)
(5-8) 水道施設計画への GA 手法の適用に関する一考察	東 京 都 立 大 学	古 川 唯 一	(338)
(5-9) 管網内オンライン情報と管網解析の連携による配水支援技術の提案	明 電 舎	島 崎 弘 志	(340)

題 名	勤 務 先	発 表 者	頁
(5-10) 地震時における配水幹線等の被害予測及びその対応の調査研究	名古屋市上下水道局	林 哲 矢	(342)
(5-11) 小口径耐震継手ダクタイル管路の一体化長さに関する研究	日本ダクタイル鉄管協会	原 毅 史	(344)
(5-12) 水道マッピングシステムと連動した設計積算 CAD システム	さいたま市水道部	塚 越 勝 己	(346)
(5-13) 配水ブロック評価における管網診断と更新管路優先順位選定の方策	横須賀市水道局	宮 川 昭 吾	(348)
(5-14) 水道用鋼管曲管の地盤変状に対する耐震安全性	日本水道鋼管協会	小 池 武	(350)
(5-15) ダクタイル鑄鉄管外面特殊塗装の耐食性の検証	徳 島 市 水道局	井 村 敏 二	(352)
(5-16) 電気防食による鋼管管路の延命と費用対効果	横須賀市水道局	濱 崎 喜 健	(354)
(5-17) 埋設環境の腐食度による管路危険度の相対評価	神戸市水道局	山 本 久 五	(356)
(5-18) 被覆材管内装着工法 (INS 工法) の設計手法に関する考察	新 日 本 製 鐵	柴 田 俊次郎	(358)
(5-19) 大口径管路におけるモルタルライニングの実績と評価	阪 神 水 道 企 業 団	幸 英 量	(360)
(5-20) ホースライニング施工管の耐震性に関する研究(Ⅱ)	日 本 ホ ー ス ラ イ ニ ン グ 協 会	惣 川 卓 治	(362)
(5-21) 伸縮機能を持ったバルブの施工性評価	前 澤 工 業	長谷部 健 次	(364)
(5-22) 埋設用メタルシートバタフライ弁の開発	ク ボ タ	塚 原 尚 起	(366)
(5-23) 減圧弁の維持管理	広 島 市 水道局	中 島 尊 正	(368)
(5-24) 減圧弁の水圧変動対策	広 島 市 水道局	岡 野 徹 昭	(370)
(5-25) 仕切弁等のキー改造による操作性向上	神戸市水道局	長 谷 祐 一	(372)
(5-26) 新川激甚災害対策事業に伴う大治水管橋の補強工事	名古屋市上下水道局	遠 藤 正 明	(374)
(5-27) 通水後30年を経過した江戸川放水路水管橋の詳細点検結果と対策	千 葉 県 水道局	堀 江 良 次	(376)
(5-28) 水道用硬質塩化ビニル管路の詳細診断法に関する調査研究	水道技術研究センター	堀 田 文 夫	(378)
(5-29) 破壊靱性値測定における信頼性向上に関する研究	旭 有 機 材 工 業	大 山 博 史	(380)
(5-30) 多層バリアパイプ (3層構造パイプ) の実用化に関する研究	川 崎 市 水道局	川 下 勝 夫	(382)
(5-31) 水道配水用ポリエチレン管用スクイズオフ工法に関する研究	水道用ポリエチレンパイプシステム研究会	加 藤 晋 一	(384)
(5-32) 水道配水用ポリエチレン管 EF サドル付分水栓の開発	積 水 化 学 工 業	大 野 宗 久	(386)
(5-33) 水道配水用ポリエチレン管 EF 継手の清掃溶剤の留意点	三 菱 樹 脂	朝 倉 啓 介	(388)
(5-34) 非開削による既設管更新技術の研究	日 本 鋼 管 工 事	西 野 健太郎	(390)
(5-35) 鑄鉄管非開削破碎更新工法の研究	ク ボ タ	横 溝 貴 司	(392)
(5-36) 配水管布設替方法の変更	横 浜 市 水道局	川 戸 一 男	(394)
(5-37) シールド工事における可燃性ガスの安全対策	東 京 都 水道局	安 西 崇 博	(396)
(5-38) 琵琶湖第2疏水連絡トンネルの建設	京 都 市 水道局	角 南 雅 人	(398)
(5-39) 大容量送水管工事 (1 工区) の施工	神 戸 市 水道局	藤 枝 篤 志	(400)
(5-40) 不断水による管内夾雑物排出工法	大 成 機 工	堀 川 剛	(402)
(5-41) 配水管内の夾雑物双方向排出装置の設置	コ ス モ 工 機	梅 田 輝 弥	(404)
(5-42) 送水管人孔蓋修繕における工法	岐 阜 県 事 業 経 営 局	森 田 茂 樹	(406)
(5-43) 水圧制御による漏水抑制対策の定量的分析ー GA を用いた最適制御計画ー	東 京 都 立 大 学	工 藤 大	(408)
(5-44) 漏水の早期発見に基づく防止水量算定方法の必要性についての考察	仙 台 市 水道局	藤 澤 正 人	(410)
(5-45) 配水池有効容量の弾力的な設定基準	い わ き 市 水道局	則 政 康 三	(412)
(5-46) ジャッキアップ工法による鋼製配水池の施工	綾 部 市 上 下 水道部	四 方 俊 明	(414)
(5-47) 水道施設用防食ライニング材の耐久性に関する基礎的研究	安 部 工 業 所	堅 田 茂 昌	(416)

題 名	勤 務 先	発 表 者	頁
(5-48) 水道施設で使用される金属材料の耐久性に関する基礎的研究	安 部 工 業 所	井 上 浩 之	(418)
(5-49) 新杭頭接合法による配水池の耐震性向上策の開発	ク ボ タ	石 原 孝 浩	(420)
(5-50) 既設コンクリート製配水池の更生工法に関する研究ーステンレス鋼板による直張り補修更生工法の開発に関する報告ー	JFE エンジニアリング	足 立 明	(422)
(5-51) 管路情報システムの導入と緊急時の対応	大 阪 府 水道部	向 井 隆 裕	(424)
(5-52) マッピング基図の合理的な更新	横須賀市水道局	山 田 宏 幸	(426)
(5-53) マッピングシステムの PC 化・Web 化	横須賀市水道局	有 馬 広 泰	(428)
(5-54) より身近なマッピングシステムへの工夫	各 務 原 市 水道部	服 部 則 仁	(430)
(5-55) マッピングシステムを利用した配水管布設路線選定支援システム	さいたま市水道部	武 笠 倫 之	(432)
(5-56) 小口径配水管の埋設深度と管内水温との相関関係	大 牟 田 市 企 業 局	西 原 博 徳	(434)
(5-57) 水道管路施設の現況把握手法に関する一考察	フ ジ 地 中 情 報	永 田 浩 一	(436)

6. 給水装置部門

(6-1) 水使用量実態調査システムの開発	東 京 都 水道局	乾 剛	(440)
(6-2) 直結加圧給水装置の給水パターンによる省エネルギーへの一考察	石 垣	遠 藤 智 己	(442)
(6-3) 水道用メータユニットの機能と安全性の考察	タ ブ チ	加 藤 真 一	(444)
(6-4) メータ交換における老朽給水管補強技術の調査研究	東 京 都 水道局	大 澤 則 夫	(446)
(6-5) 大型メータボックスの設計に関する一考察ー大型鉄蓋の採用に関する報告ー	防 府 市 水道局	上 野 忠 彦	(448)
(6-6) 循環型社会における給水材料	名古屋市上下水道局	山 本 直 弘	(450)
(6-7) 水道用ポリエチレン二層管の耐塩素水性	日本ポリエチレンパイプ工業会	早 川 洋 司	(452)
(6-8) 架橋ポリエチレン管における凍結予防・解凍システムの研究	前 澤 給 装 工 業	中 村 誠 也	(454)
(6-9) 水道配水用ポリエチレン管サドル付分水栓及び穿孔機に関する研究	日 邦 バ ル ブ	渡 辺 隆 雄	(456)
(6-10) ポリエチレン管非開削工法の検討	札 幌 市 水道局	鎌 田 寿 子	(458)
(6-11) 配管材としての銅が <i>Legionella pneumophila</i> に対して及ぼす抗菌性の評価	日 本 銅 セ ン タ ー	荻 原 進	(460)
(6-12) トータルバランスに優れた鉛レス銅合金の開発	キ ッ ツ	黒 瀬 一 人	(462)
(6-13) ICP-MS による鉛レス給水器具浸出液のビスマスの調査	日 本 水 道 協 会	波田野 哲 也	(464)
(6-14) 鉛給水管からの鉛の溶出に関する基礎的検討	国立保健医療科学院	赤 井 寿 充	(466)
(6-15) 鉛管からの鉛溶出に関する考察	茨 城 大 学	丹 治 輝	(468)
(6-16) 鉛製給水管からの溶出鉛低減化に関する調査実験	東 京 都 水道局	橋 本 左 右	(470)
(6-17) 水道メータ鉛浸出対応表面改質処理に関する一考察	リ コ ー エ レ メ ッ ク ス	北 出 弘 幸	(472)
(6-18) 浄水器等による水質汚染リスクに関する検討	国立保健医療科学院	古 賀 誠 一	(474)
(6-19) 水電解消毒装置による残留塩素濃度維持の検討	富 士 電 機	石 岡 久 道	(476)

7. 機械・電気・計装部門

(7-1) 配水水質自動監視装置の設置	京 都 市 水道局	笹 原 研 司	(480)
(7-2) 水運用システム更新	横 須 賀 市 水道局	原 繁 樹	(482)
(7-3) ネットワーク対応 WEB 監視システム構築	横 河 電 機	佐々木 竜 治	(484)

題 名	勤 務 先	発 表 者	頁
(7-4) 地域情報ネットワークを利用した広域監視システム	東 芝	沼 田 一 男	(486)
(7-5) 高濃度次亜塩素酸ナトリウムの自家生成による水素燃料電池の研究	横 浜 市 水 道 局	蒲 谷 昌 好	(488)
(7-6) 環境とコストを配慮した水蓄熱空調システム	横 浜 市 水 道 局	飯 岡 宏 之	(490)
(7-7) 千刈浄水場における小水力発電等の新エネルギー導入	神 戸 市 水 道 局	清 貞 久 男	(492)
(7-8) 尼崎浄水場コージェネレーションシステム導入に関する技術評価	阪 神 水 道 企 業 団	浦 川 比呂志	(494)
(7-9) 管路網更新のための流方向計の開発	フ ジ テ コ ム	平 林 裕 司	(496)
(7-10) 次亜塩素酸ナトリウム等腐食性薬液を貯蔵する全チタン製円筒式薬品貯蔵槽の開発	日 本 水 道 協 会	佐 藤 敬 一	(498)
(7-11) ポンプ設備における固体伝搬音の一考察	荏 原 製 作 所	松 田 道 昭	(500)
(7-12) 幹線電動弁の整備における信頼性向上策	大 阪 市 水 道 局	木 村 昭 博	(502)
(7-13) 緩速戸過方式浄水場における自動制御システムの開発	東 京 都 水 道 局	荒 谷 弘 基	(504)
(7-14) 浄水施設の非定常運転における運転支援システムの適用	横 河 電 機	長谷川 好 一	(506)
(7-15) フィールドデータに基づく浄水場の信頼性と保全性解析 (V) ー水道プラント稼働初期の故障発生状況ー	兵 庫 県 企 業 庁	武 市 久仁彦	(508)
(7-16) 上水道設備等の異常対策支援システム	西 川 計 測	辻 恵一郎	(510)

8. 水 質 部 門

(8-1) 主要河川水中に含まれるフルボ酸様有機物の蛍光分析	東 芝	海 賀 信 好	(514)
(8-2) 水上バイクから排出される VOC、MTBE の水道原水への影響	大 津 市 企 業 局	岩 坂 一 弥	(516)
(8-3) 兵庫県下における水道原水及び水道水中カーバメート系農薬の実態調査	兵 庫 県 立 健 康 環 境 科 学 研 究 セ ン タ ー	卷 幡 希 子	(518)
(8-4) 埼玉県営水道における水道水中のダイオキシン類の検出状況	埼 玉 県 企 業 局	高 野 利 一	(520)
(8-5) 釜房ダム湖流域における AOC の測定	東 北 大 学	許 春 蓮	(522)
(8-6) 水道用貯水池に応用した部分遮光法の効果	日 水 コ ン	小 島 貞 男	(524)
(8-7) 滞留日数が短い貯水池における藻類の監視方法の検討	愛 知 県 企 業 庁	池 山 富二男	(526)
(8-8) 不飽和高級脂肪酸による <i>Phormidium tenue</i> の 2-MIB 産生抑制	国立保健医療科学院	齋 藤 正 樹	(528)
(8-9) 手賀沼におけるかび臭発生状況と原因藻類	千 葉 県 水 道 局	杉 尾 明 紀	(530)
(8-10) 千刈貯水池における障害生物の発生と対策	神 戸 市 水 道 局	伊 藤 裕 之	(532)
(8-11) 利根川上流部におけるカビ臭発生状況	埼 玉 県 企 業 局	諏 合 忍	(534)
(8-12) 臭化物イオン存在下での塩素処理水の有害性	京 都 大 学	荒 木 俊 昭	(536)
(8-13) 東京都多摩地域における河川水及び飲料水中の臭素酸イオンの実態	東 京 都 立 衛 生 研 究 所	宇佐美 美穂子	(538)
(8-14) 猪名川浄水場における臭化物イオンと臭素系消毒副生成物の挙動	阪 神 水 道 企 業 団	橋 本 久 志	(540)
(8-15) 吉井川水系における UV 吸光度と過マンガン酸カリウム消費量との相関性及びトリハロメタン制御への応用	岡山県広域水道企業団	久 山 敦 史	(542)
(8-16) 重回帰分析によるトリハロメタン生成能の予測	福岡県南広域水道企業団	塚 本 和 寛	(544)
(8-17) トリハロメタン生成速度に関する一考察	茨 城 県 企 業 局	櫻 井 智 子	(546)
(8-18) 鉛管対策のための pH 調整試行に伴う THM と鉛濃度等の挙動	堺 市 水 道 局	田 中 功	(548)

題 名	勤 務 先	発 表 者	頁
(8-19) 水中の化学物質による残留塩素消費予測モデル	名古屋市上下水道局	杉 本 智 美	(550)
(8-20) 市内配水過程における高度浄水処理水の残留塩素の挙動	大 阪 市 水 道 局	淵 上 知 弘	(552)
(8-21) 水道水における同化性有機炭素の調査	阪 神 水 道 企 業 団	宮 川 徹 也	(554)
(8-22) DPD 法による残留塩素測定における妨害反応	広 島 県 企 業 局	温 井 信 聡	(556)
(8-23) 全有機塩素と全有機臭素の分離定量	京 都 大 学	越 後 信 哉	(558)
(8-24) 市販臭化水素酸を用いたポストカラム法による臭素酸イオンの測定と浄水中のその由来	横 浜 市 水 道 局	関 口 恵 美	(560)
(8-25) SPME-GCMS 法による有機スズ化合物の分析方法	愛 知 県 企 業 庁	下 元 妃 俊	(562)
(8-26) 水道水中の有機ハロゲン系消毒副生成物の一斉分析	愛 知 県 衛 生 研 究 所	猪 飼 誉 友	(564)
(8-27) 水中の VOCs の P & T-GC/MS 法による迅速分析法	ジーエルサイエンス	今 中 努 志	(566)
(8-28) SPME-GC-MS 法によるかび臭物質測定と生ぐさ臭指標物質及びトリハロメタンとの同時分析	広 島 県 企 業 局	小 島 洋 治	(568)
(8-29) GC/MS による水道水中のフェノール及び塩素化フェノール分析法に関する研究	兵庫県立健康環境科学 研 究 セ ン タ ー	川 元 達 彦	(570)
(8-30) 空中散布農薬の一斉分析方法の検討	埼 玉 県 企 業 局	寺 中 郁 夫	(572)
(8-31) 固相抽出-GC/MS 法によるゴルフ場農薬測定におけるマトリックス効果の低減	名古屋市上下水道局	奥 村 学	(574)
(8-32) イオントラップ型 GC-MS/MS 法による農薬測定	福岡県南広域水道企業団	井 上 剛	(576)
(8-33) HPLC/PDA 検出器/蛍光検出器による農薬 9 種一斉分析法の検討	岡 山 市 水 道 局	木 村 美 紀	(578)
(8-34) アクリルアミドモノマーの高感度分析方法及び凝集処理における挙動に関する検討	国立保健医療科学院	島 崎 大	(580)
(8-35) LC-MS によるアクリルアミドの検査方法の検討及びその実態調査	川 崎 市 水 道 局	桐 村 ひでみ	(582)
(8-36) 1,2-ブタジエン、1,3-ブタジエン、酢酸ビニルモノマー及び N,N-ジメチルアニリンの分析方法	国 立 医 薬 品 食 品 衛 生 研 究 所	西 村 哲 治	(584)
(8-37) LC/MS によるノニルフェノール、ビスフェノール A 及び17β-エストラジオールの一斉分析法	福 岡 市 水 道 局	阿 部 勇 一	(586)
(8-38) ヒメダカビテロジェニンアッセイを用いた塩素置換 bisphenol-A のエストロゲン様作用の評価	北 海 道 大 学	田 畑 彰 久	(588)
(8-39) 環境水中のエストロゲン様活性低減のための塩素処理条件の検討	北 海 道 大 学	伊 藤 和 徳	(590)
(8-40) 内分泌攪乱化学物質及び同作用の浄水処理性	大 阪 府 水 道 部	五十嵐 小百合	(592)
(8-41) 遠賀川水系におけるアルキルフェノール類の実態調査	北九州市環境科学研究所	武 富 眞	(594)
(8-42) 溶存酸素を指標としたクロノアンペロメトリーによる一般細菌数の簡易計測	大 阪 工 業 大 学	笠 原 伸 介	(596)
(8-43) 送配水管内における微生物の再増殖特性に及ぼすリンの影響	大 阪 工 業 大 学	前 田 和 孝	(598)
(8-44) 水道原水における大腸菌及び大腸菌群の実態調査	京 都 市 水 道 局	野 村 隆 夫	(600)
(8-45) 種特異的 PCR によるかび臭産生及び非産生藍藻類の同定	新エネルギー産業技術 総 合 開 発 機 構	及 川 栄 作	(602)
(8-46) 湖沼の植物性プランクトンが持つ表面電荷特性	千 葉 工 業 大 学	瀧 和 夫	(604)
(8-47) クリプトスポリジウムの試験方法 (Ⅰ) ー試料の濃縮方法に関する検討ー	大 阪 府 水 道 部	向 井 聖 二	(606)
(8-48) クリプトスポリジウムの試験方法 (Ⅱ) ー染色と精度管理方法に関する検討ー	兵 庫 県 企 業 庁	井 上 亘	(608)
(8-49) クリプトスポリジウムの試験方法 (Ⅲ) ー新しい試験方法の概要ー	北千葉広域水道企業団	大 嶋 剛	(610)
(8-50) クリプト試験における砂鉄粒の影響と携帯型中空糸膜濃縮装置の実用化試験	宮 崎 市 水 道 局	工 藤 信 廣	(612)
(8-51) クリプトスポリジウムの DNA/RNA 検出法の開発	東 和 科 学	小 林 美佐子	(614)
(8-52) かび臭物質自動測定器 (かび臭モニター) の運用	東 京 都 水 道 局	舟 洞 健 二	(616)
(8-53) 水道水源における残留農薬の監視プライオリティーに関する研究	横 浜 市 水 道 局	相 澤 貴 子	(618)

題 名	勤 務 先	発 表 者	頁
(8-54) 活性炭処理性を考慮した水道における残留農薬の評価	国立保健医療科学院	鎌田素之	(620)

9. 災害対策部門

(9-1)	災害に係わる危機管理対策	札幌市水道局	谷口誠一 (624)
(9-2)	災害情報システムの構築	大阪市水道局	亀山政一 (626)
(9-3)	配水ブロックシステムの耐震性の定量評価	大阪市水道局	松井光弘 (628)
(9-4)	炭素繊維シートによる高架水槽の耐震補強	北千葉広域水道企業団	田北健之 (630)
(9-5)	サイホン遮断法を用いる2段階制御法による緊急時水確保システム付配水池	ベルテクノ技研	後藤道雄 (632)
(9-6)	応急給水における受水者の水の運搬距離と疲労に関する実験	鳥取大学	板谷真悟 (634)
(9-7)	水道原水監視における広域的アプローチに関する研究 ー Extensive Sensing Map の検討ー	東 芝	金子政雄 (636)
(9-8)	市民が行政と協働して行う渇水対応 ー止水栓の絞り込みによる自主減圧・自主断水ー	高松市水道局	森本啓三 (638)

10. 英語部門

(10-1)	The Approach to Results Measurement and Evaluating Training Programs ー横浜市水道局における研修効果測定と評価の取り組みー	横浜市水道局	種村麻衣子 (642)
(10-2)	Evaluation Study on Water Supply Project by Questionnaire Survey of Water Usage in the Philippines ー水道整備プロジェクト評価のためのフィリピン水利用アンケート調査ー	立命館大学	服部容子 (644)
(10-3)	The Defluoridation Support for Practical Implementation at Local Level in Tanzania ータンザニア村落地域へのフッ素除去装置の実用化に向けてー	日本テクノ	松井康弘 (646)
(10-4)	Control of Water Quality in Transmission & Distribution Process ー送配水過程における水質維持管理ー	名古屋市上下水道局	桂川博志 (648)
(10-5)	A Study on <i>Cryptosporidium</i> Oocysts Removal by Coagulation and Rapid Sand Filtration; An Application of the Fluorescence Labeled Oocysts ー蛍光標識オーシストを用いた凝集沈澱・砂濾過処理によるクリプトスポリジウムの除去に関する調査ー	大阪市水道局	稲田康志 (650)
(10-6)	Settling Pretreatment and UF Membrane; A Case Study for a 34,000 m ³ /day Plant ー沈澱とUF膜処理：プラント(34,000m ³ /日)でのケーススタディーー	オンデオデグレモン	Frédéric Colas (652)
(10-7)	Effect of Hydraulic Conditions on Clarifier Performance ー沈澱池の効率に及ぼす水理条件の影響ー	Seoul Development Institute	Hang-Moon Cho (654)

水道フォーラム 水道の未来を語ろう「ISOによる水道業務の標準化を考える」 ー国民に信頼される水道サービスをー

ISO/TC224の動向		
ISO/TC224下水道国内対策協議会委員長(㈱西原技術顧問)	京才俊則	(658)
水道哲学とISO/TC224		
ISO/TC224ワーキンググループ3部会長(㈱荏原製作所B/A推進室部長)	吉村和就	(665)
ISOを活用して信頼される水道サービスを 名古屋市上下水道局水道本部水道建設部長	長坂勉	(670)
新しいパラダイムでの水道		
ISO/TC224上水道対策パネル代表(北海道大学大学院教授)	眞柄泰基	(674)

第54回 全国水道研究発表会 日程

() 内の数字は研究発表番号

会場	5月14日(水) 名古屋国際会議場 センチュリーホール					
	9:40～9:50 開会式					
	10:00～12:00 水道フォーラム 題名：水道の未来を語ろう「ISOによる水道業務の標準化を考える」 —国民に信頼される水道サービスを—					
発表会場	第1会場 名古屋国際会議場 1号館4階141～142会議室	第2会場 名古屋国際会議場 1号館3階131～134会議室	第3会場 名古屋国際会議場 4号館3階431～432会議室	第4会場 名古屋国際会議場 2号館2階224会議室	第5会場 名古屋国際会議場 2号館3階234会議室	第6会場 名古屋国際会議場 2号館3階232～233会議室
5月14日(水)午後	12:45～14:00 水質部門 (調査関係－水源等①) (8-1～8-5)	12:45～14:15 浄水部門 (凝集・沈澱関係①) (4-1～4-6)	12:45～14:00 浄水部門 (高度処理関係①) (4-55～4-59)	12:45～14:30 導・送・配水部門 (配水調整関係) (5-1～5-7)	12:45～13:45 機械・電気・計装部門 (情報システム関係) (7-1～7-4)	12:45～14:30 計画部門 (需要予測・水量関係) (2-1～2-7)
	14:05～15:35 水質部門 (調査関係－水源等②) (8-6～8-11)	14:20～15:20 浄水部門 (凝集・沈澱関係②) (4-7～4-10)	14:05～15:05 浄水部門 (高度処理関係②) (4-60～4-63)	14:35～15:35 導・送・配水部門 (管路関係①) (5-8～5-11)	13:50～15:20 機械・電気・計装部門 (新エネルギー・技術開発関係) (7-5～7-10)	14:35～16:05 計画部門 (施設整備関係①) (2-8～2-13)
	15:40～17:10 水質部門 (調査関係－消毒副生成物) (8-12～8-17)	15:25～16:25 浄水部門 (凝集・沈澱関係③) (4-11～4-14)	15:10～16:40 浄水部門 (オゾン処理関係) (4-64～4-69)	15:40～16:40 導・送・配水部門 (管路関係②) (5-12～5-15)	15:25～16:55 機械・電気・計装部門 (施設管理関係) (7-11～7-16)	16:10～17:10 計画部門 (施設整備関係②) (2-14～2-17)
5月15日(木)午前	9:00～10:00 水質部門 (調査関係－給水栓水) (8-18～8-21)	9:00～10:15 浄水部門 (凝集・沈澱関係④) (4-15～4-19)	9:00～10:30 浄水部門 (その他処理関係①) (4-70～4-75)	9:00～10:15 導・送・配水部門 (管路関係③) (5-16～5-20)	9:00～10:15 給水装置部門 (計量器関係) (6-1～6-5)	9:00～10:00 計画部門 (環境対策関係・その他) (2-18～2-21)
	10:05～11:20 水質部門 (試験方法関係等①) (8-22～8-26)	10:20～12:05 浄水部門 (膜処理関係①) (4-20～4-26)	10:35～11:50 浄水部門 (その他処理関係②) (4-76～4-80)	10:20～11:35 導・送・配水部門 (管路関係④) (5-21～5-25)	10:20～11:50 給水装置部門 (材料関係) (6-6～6-11)	10:05～11:35 事務部門 (経営・計画関係①) (1-1～1-6)
	11:25～12:40 水質部門 (試験方法関係等②) (8-27～8-31)			11:40～12:40 導・送・配水部門 (管路関係⑤) (5-26～5-29)		

5月15日(木)午後	13:20～14:35 水質部門 (試験方法関係等③) (8-32～8-36)	13:00～14:30 浄水部門 (膜処理関係②) (4-27～4-32)	13:00～14:15 浄水部門 (汙過関係①) (4-81～4-85)	13:20～14:20 導・送・配水部門 (管路関係⑥) (5-30～5-33)	13:00～14:00 給水装置部門 (鉛関係①) (6-12～6-15)	12:45～14:30 事務部門 (経営・計画関係②) (1-7～1-13)
	14:40～15:55 水質部門 (環境ホルモン関係) (8-37～8-41)	14:35～15:50 浄水部門 (膜処理関係③) (4-33～4-37)	14:20～15:35 浄水部門 (汙過関係②) (4-86～4-90)	14:25～15:25 導・送・配水部門 (管路関係⑦) (5-34～5-37)	14:05～15:05 給水装置部門 (鉛関係②・その他) (6-16～6-19)	14:35～15:35 事務部門 (営業・業務関係①) (1-14～1-17)
	16:00～17:15 水質部門 (微生物・生物関係) (8-42～8-46)	15:55～17:10 浄水部門 (膜処理関係④) (4-38～4-42)	15:40～16:40 浄水部門 (汙過関係③) (4-91～4-94)	15:30～16:45 導・送・配水部門 (管路関係⑧) (5-38～5-42)	15:10～16:10 災害対策部門 (震災対策関係①) (9-1～9-4)	15:40～16:40 事務部門 (営業・業務関係②) (1-18～1-21)
5月16日(金)午前					16:15～17:15 災害対策部門 (震災対策関係②・その他) (9-5～9-8)	16:45～17:30 事務部門 (人事・広報関係) (1-22～1-24)
	9:00～10:15 水質部門 (クリプトスפורジウム・試験方法関係) (8-47～8-51)	9:00～10:00 浄水部門 (排水処理関係①) (4-43～4-46)	9:00～10:00 浄水部門 (汙過関係④) (4-95～4-98)	9:00～10:00 導・送・配水部門 (漏水防止関係・配水池関係①) (5-43～5-46)	9:00～10:00 英語部門 (全般①) (10-1～10-4)	9:00～10:30 水源・取水部門 (水源関係) (3-1～3-6)
	10:20～11:05 水質部門 (浄水処理関係) (8-52～8-54)	10:05～11:05 浄水部門 (排水処理関係②) (4-47～4-50)	10:05～11:05 浄水部門 (生物処理関係) (4-99～4-102)	10:05～11:50 導・送・配水部門 (情報処理関係) (5-51～5-57)	10:05～10:50 英語部門 (全般②) (10-5～10-7)	10:35～11:35 水源・取水部門 (取水関係) (3-7～3-10)
		11:10～12:10 浄水部門 (排水処理関係③) (4-51～4-54)			10:55～11:55 導・送・配水部門 (配水池関係②) (5-47～5-50)	

部門別発表数
事務24、計画21、水源・取水10、浄水102、導・送・配水57、給水装置19、機械・電気・計装16、水質54、災害対策8、英語7、計318

- 発表者各位へ
- (1) 研究発表の30分前までに該当発表部門の会場受付へお越し下さい。
 - (2) 研究発表時間は1人12分間で質疑応答時間は3分間です。
 - (3) 研究発表終了後も質疑応答が終了するまで必ず発表者席で待機して下さい。
 - (4) 発表者の欠席などにより発表時間が繰り上がることがありますのでご注意下さい。
 - (5) 欠席する場合は必ず前もってご連絡下さい。登壇者の変更は共同研究者の範囲内に限りますのでご注意下さい。
 - (6) 目次及び時間割には登壇者の氏名のみを発表者として掲載し、共同研究者の氏名は割愛しましたのでご了承下さい。
 - (7) 浄水部門と導送配水部門の研究発表は複数の会場に分かれて行いますのでご注意下さい。

第54回全国水道研究発表会座長一覧表

会場 月日	第1会場 名古屋国際会議場 1号館4階141～142会議室	第2会場 名古屋国際会議場 1号館3階131～134会議室	第3会場 名古屋国際会議場 4号館3階431～432会議室	第4会場 名古屋国際会議場 2号館2階224会議室	第5会場 名古屋国際会議場 2号館3階234会議室	第6会場 名古屋国際会議場 2号館3階232～233会議室
5月14日(水)(午後)	12:45～14:00 水質部門(調査関係－水源等①) (8-1～8-5)計5題 北海道大学大学院教授 清水 達雄	12:45～14:15 浄水部門(凝集・沈澱関係①) (4-1～4-6)計6題 国立保健医療科学院主任研究官 秋葉 道宏	12:45～14:00 浄水部門(高度処理関係①) (4-55～4-59)計5題 京都大学大学院教授 伊藤 禎彦	12:45～14:30 導・送・配水部門(配水調整関係) (5-1～5-7)計7題 東京都立大学大学院教授 小泉 明	12:45～13:45 機械・電気・計装部門(情報システム関係) (7-1～7-4)計4題 名古屋市施設課長 武内 継久	12:45～14:30 計画部門(需要予測・水量関係) (2-1～2-7)計7題 立命館大学教授 山田 淳
	14:05～15:35 水質部門(調査関係－水源等②) (8-6～8-11)計6題 豊橋技術科学大学教授 藤江 幸一	14:20～15:20 浄水部門(凝集・沈澱関係②) (4-7～4-10)計4題 八戸工業大学教授 福士 憲一	14:05～15:05 浄水部門(高度処理関係②) (4-60～4-63)計4題 国立保健医療科学院水道計画室長 伊藤 雅喜	14:35～15:35 導・送・配水部門(管路関係①) (5-8～5-11)計4題 名古屋市配水課長 石川 美直	13:50～15:20 機械・電気・計装部門(新エネルギー・技術開発関係) (7-5～7-10)計6題 岐阜大学教授 湯浅 晶	14:35～16:05 計画部門(施設整備関係①) (2-8～2-13)計6題 名古屋市建設課長 小島 克生
	15:40～17:10 水質部門(調査関係－消毒副生成物) (8-12～8-17)計6題 摂南大学教授 中室 克彦	15:25～16:25 浄水部門(凝集・沈澱関係③) (4-11～4-14)計4題 新潟大学教授 高橋 敬雄	15:10～16:40 浄水部門(オゾン処理関係) (4-64～4-69)計6題 京都大学教授 津野 洋	15:40～16:40 導・送・配水部門(管路関係②) (5-12～5-15)計4題 千葉工業大学教授 瀧 和夫	15:25～16:55 機械・電気・計装部門(施設管理関係) (7-11～7-16)計6題 日水協研究専門監 佐藤 敬一	16:10～17:10 計画部門(施設整備関係②) (2-14～2-17)計4題 日水協水道技術総合研究所長 石井 健睿
5月15日(木)(午前)	9:00～10:00 水質部門(調査関係－給水栓水) (8-18～8-21)計4題 静岡県立大学教授 木苗 直秀	9:00～10:15 浄水部門(凝集・沈澱関係④) (4-15～4-19)計5題 北海道大学大学院教授 渡辺 義公	9:00～10:30 浄水部門(その他処理関係①) (4-70～4-75)計6題 石巻専修大学教授 高崎 みつる	9:00～10:15 導・送・配水部門(管路関係③) (5-16～5-20)計5題 名古屋市浄水課長 三上 基樹	9:00～10:15 給水装置部門(計量器関係) (6-1～6-5)計5題 北海道大学大学院教授 眞柄 泰基	9:00～10:00 計画部門(環境対策関係・その他) (2-18～2-21)計4題 三重大学教授 朴 恵淑
	10:05～11:20 水質部門(試験方法関係等①) (8-22～8-26)計5題 国立医薬品食品衛生研究所部長 安藤 正典	10:20～12:05 浄水部門(膜処理関係①) (4-20～4-26)計7題 東京大学大学院教授 中尾 真一	10:35～11:50 浄水部門(その他処理関係②) (4-76～4-80)計5題 摂南大学教授 金子 光美	10:20～11:35 導・送・配水部門(管路関係④) (5-21～5-25)計5題 東北大学大学院教授 大村 達夫	10:20～11:50 給水装置部門(材料関係) (6-6～6-11)計6題 国立保健医療科学院室長 森 一晃	10:05～11:35 事務部門(経営・計画関係①) (1-1～1-6)計6題 富士常葉大学教授 竹居 照芳
	11:25～12:40 水質部門(試験方法関係等②) (8-27～8-31)計5題 国立医薬品食品衛生研究所室長 西村 哲治			11:40～12:40 導・送・配水部門(管路関係⑤) (5-26～5-29)計4題 東海大学教授 茂庭 竹生		

5月15日(木)(午後)	13:20～14:35 水質部門(試験方法関係等③) (8-32～8-36)計5題 横浜市水道局技術顧問 相澤 貴子	13:00～14:30 浄水部門(膜処理関係②) (4-27～4-32)計6題 東京大学大学院教授 古米 弘明	13:00～14:15 浄水部門(汙過関係①) (4-81～4-85)計5題 北見工業大学教授 海老江 邦雄	13:20～14:20 導・送・配水部門(管路関係⑥) (5-30～5-33)計4題 名古屋市給排水設備課長 高見 享	13:00～14:00 給水装置部門(鉛関係①) (6-12～6-15)計4題 東京農工大学教授 細見 正明	12:45～14:30 事務部門(経営・計画関係②) (1-7～1-13)計7題 麻布大学教授 早川 哲夫
	14:40～15:55 水質部門(環境ホルモン関係) (8-37～8-41)計5題 九州大学大学院教授 内海 英雄	14:35～15:50 浄水部門(膜処理関係③) (4-33～4-37)計5題 武蔵工業大学助教授 長岡 裕	14:20～15:35 浄水部門(汙過関係②) (4-86～4-90)計5題 東北工業大学教授 今野 弘	14:25～15:25 導・送・配水部門(管路関係⑦) (5-34～5-37)計4題 名古屋市設計課長 長谷川 勇	14:05～15:05 給水装置部門(鉛関係②・その他) (6-16～6-19)計4題 国立保健医療科学院水道工学部長 国包 章一	14:35～15:35 事務部門(営業・業務関係①) (1-14～1-17)計4題 日水協調査部長 中村 幸雄
	16:00～17:15 水質部門(微生物・生物関係) (8-42～8-46)計5題 麻布大学教授 平田 強	15:55～17:10 浄水部門(膜処理関係④) (4-38～4-42)計5題 東京大学教授 山本 和夫	15:40～16:40 浄水部門(汙過関係③) (4-91～4-94)計4題 広島大学大学院教授 岡田 光正	15:30～16:45 導・送・配水部門(管路関係⑧) (5-38～5-42)計5題 岡山大学教授 河原 長美	15:10～16:10 災害対策部門(震災対策関係①) (9-1～9-4)計4題 神戸大学教授 高田 至郎	15:40～16:40 事務部門(営業・業務関係②) (1-18～1-21)計4題 日水協研修国際部長 木下 一兵
5月16日(金)(午前)	9:00～10:15 水質部門(クリプトスポリジウム・試験方法関係) (8-47～8-51)計5題 国立感染症研究所室長 遠藤 卓郎	9:00～10:00 浄水部門(排水処理関係①) (4-43～4-46)計4題 東北学院大学教授 石橋 良信	9:00～10:00 浄水部門(汙過関係④) (4-95～4-98)計4題 岐阜大学教授 松井 佳彦	9:00～10:00 導・送・配水部門(漏水防止関係・配水池関係①) (5-43～5-46)計4題 日水協工務部長 北原 健次	9:00～10:00 英語部門(全般①) (10-1～10-4)計4題 東京大学大学院助教授 滝沢 智	9:00～10:30 水源・取水部門(水源関係) (3-1～3-6)計6題 岐阜大学助教授 井上 隆信
	10:20～11:05 水質部門(浄水処理関係) (8-52～8-54)計3題 金沢工業大学 土佐 光司	10:05～11:05 浄水部門(排水処理関係②) (4-47～4-50)計4題 広島工業大学教授 今岡 務	10:05～11:05 浄水部門(生物処理関係) (4-99～4-102)計4題 宮崎大学教授 丸山 俊朗	10:05～11:50 導・送・配水部門(情報処理関係) (5-51～5-57)計7題 岡山大学教授 青山 勲	10:05～10:50 英語部門(全般②) (10-5～10-7)計3題 北海道大学大学院助教授 亀井 翼	10:35～11:35 水源・取水部門(取水関係) (3-7～3-10)計4題 九州大学大学院教授 神野 健二
		11:10～12:10 浄水部門(排水処理関係③) (4-51～4-54)計4題 山口大学教授 浮田 正夫			10:55～11:55 導・送・配水部門(配水池関係②) (5-47～5-50)計4題 日水協検査部長 井上 圭司	

研究発表の会場別時間割

〔第1日目 5月14日(水) 午後〕

第1会場/名古屋国際会議場1号館4階141~142会議室

〔水質部門(調査関係-水源等①)〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
12時45分~14時	(8-1) 主要河川水中に含まれるフルボ酸様有機物の蛍光分析	東 芝	海 賀 信 好 (514)
	(8-2) 水上バイクから排出される VOC、MTBE の水道原水への影響	大 津 市 企 業 局	岩 坂 一 弥 (516)
	(8-3) 兵庫県下における水道原水及び水道水中カーバメート系農薬の実態調査	兵庫県立健康環境科学研究所	巻 幡 希 子 (518)
	(8-4) 埼玉県営水道における水道水中のダイオキシン類の検出状況	埼 玉 県 企 業 局	高 野 利 一 (520)
	(8-5) 釜房ダム湖流域における AOC の測定	東 北 大 学	許 春 蓮 (522)

〔水質部門(調査関係-水源等②)〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
14時5分~15時35分	(8-6) 水道用貯水池に応用した部分遮光法の効果	日 水 コ ン	小 島 貞 男 (524)
	(8-7) 滞留日数が短い貯水池における藻類の監視方法の検討	愛 知 県 企 業 庁	池 山 富 二 男 (526)
	(8-8) 不飽和高級脂肪酸による <i>Phormidium tenue</i> の 2-MIB 産生抑制	国立保健医療科学院	齋 藤 正 樹 (528)
	(8-9) 手賀沼におけるかび臭発生状況と原因藻類	千 葉 県 水 道 局	杉 尾 明 紀 (530)
	(8-10) 千刈貯水池における障害生物の発生と対策	神 戸 市 水 道 局	伊 藤 裕 之 (532)
	(8-11) 利根川上流部におけるカビ臭発生状況	埼 玉 県 企 業 局	諏 合 忍 (534)

〔水質部門(調査関係-消毒副生成物)〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
15時40分~17時10分	(8-12) 臭化物イオン存在下での塩素処理水の有害性	京 都 大 学	荒 木 俊 昭 (536)
	(8-13) 東京都多摩地域における河川水及び飲料水中の臭素酸イオンの実態	東京都立衛生研究所	宇 佐 美 美 穂 子 (538)
	(8-14) 猪名川浄水場における臭化物イオンと臭素系消毒副生成物の挙動	阪 神 水 道 企 業 団	橋 本 久 志 (540)
	(8-15) 吉井川水系における UV 吸光度と過マンガン酸カリウム消費量との相関性及びトリハロメタン制御への応用	岡山県広域水道企業団	久 山 敦 史 (542)
	(8-16) 重回帰分析によるトリハロメタン生成能の予測	福 岡 県 南 広 域 水 道 企 業 団	塚 本 和 寛 (544)
	(8-17) トリハロメタン生成速度に関する一考察	茨 城 県 企 業 局	櫻 井 智 子 (546)

第2会場/名古屋国際会議場1号館3階131~134会議室

〔浄水部門(凝集・沈澱関係①)〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
12時45分~14時15分	(4-1) 新鉄系凝集剤ポリ塩化第二鉄(PFC)の開発(I) -パイロットプラント実験結果-	特 別 会 員	浦 野 陽 (118)
	(4-2) 無機凝集剤による天然有機物の凝集処理特性	岐 阜 大 学	星 野 博 司 (120)
	(4-3) ポリシリカ鉄凝集剤(PSI)の実施設への適用	水 道 機 工	亀 田 修 平 (122)
	(4-4) PSIに適する凝集処理条件の検討	北 海 道 大 学	大 野 浩 一 (124)
	(4-5) 鉄系凝集剤 PSI による濁質の凝集沈澱及び汚過処理の高効率化	北 見 工 業 大 学	水 森 豊 (126)
	(4-6) 鉄系凝集剤に関する浄水及び排水処理実験	東 京 都 水 道 局	尾 高 康 治 (128)

〔浄水部門(凝集・沈澱関係②)〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
14時15分~20時20分	(4-7) 流動電流測定法による凝集剤自動注入制御実験(I) -濁度と色度変化の対応-	美 幌 町 建 設 水 道 部	澤 島 雅 俊 (130)
	(4-8) 流動電流測定法による凝集剤自動注入制御実験(II) -流量変化への対応-	西原ウォーターテック	竹 野 義 嗣 (132)
	(4-9) 粒子カウンタを用いた凝集沈澱制御システムの構築(III)	横 河 電 機	森 意 佐 央 (134)
	(4-10) 操作量としてのフロック形成池の攪拌強度に関する実験	富 士 電 機	吉 田 孝 次 (136)

〔浄水部門(凝集・沈澱関係③)〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
15時16分~25時25分	(4-11) 凝集沈澱処理における濁度・色度除去とコロイド荷電量との関係についての研究	北 海 道 大 学	江 端 克 明 (138)
	(4-12) 低濁度原水における低濃度凝集剤の注入効果	仙 台 市 水 道 局	山 田 秀 樹 (140)
	(4-13) 凝集剤注入点の変更による凝集効果の改善	北 九 州 市 水 道 局	江 藤 孝 義 (142)
	(4-14) 急速攪拌 G_R 値及び T_R 値の適正化による低温濁水の処理性改善	北 見 工 業 大 学	山 木 暁 (144)

第3会場/名古屋国際会議場4号館3階431~432会議室

〔浄水部門(高度処理関係①)〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
12時45分~14時	(4-55) 見崎浄水場における生物活性炭処理	山 形 市 水 道 部	板 坂 久 美 子 (226)
	(4-56) 生物活性炭汚過による有機物除去効果	三 機 工 業	柴 田 一 栄 (228)
	(4-57) 本城浄水場に導入した生物接触汚過施設の運用	北 九 州 市 水 道 局	山 崎 千 寿 (230)
	(4-58) 北郡山浄水場生物接触汚過施設の概要	大 和 郡 山 市 水 道 局	南 恭 史 (232)
	(4-59) 生物接触汚過実施施設の充填汚材の調査結果	JFE エンジニアリング	瀧 上 浩 司 (234)

〔浄水部門（高度処理関係②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
14時15分～5時5分	(4-60) オゾン処理における二酸化塩素の効果	茨城県企業局	石崎孝幸 (236)
	(4-61) 高度浄水処理における臭素酸イオンの生成制御方法	大阪市水道局	平林達也 (238)
	(4-62) オゾン・BAC 処理における弱前塩素処理の影響	北千葉広域水道企業団	杉 寄 隆 弘 (240)
	(4-63) オゾン処理施設における臭素酸イオン等の調査	沖縄県企業局	仲 地 健 次 (242)

〔浄水部門（オゾン処理関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
15時10分～16時40分	(4-64) 水道原水における2-MIB のオゾン処理、促進酸化処理特性	富士電機	加藤康弘 (244)
	(4-65) フミン質の分子量及び分解性が THMFP に与える影響	東 海 大 学	林 禾 (246)
	(4-66) 蛍光スペクトル解析を用いた THM 生成におけるフミン質の分子量の影響	東 海 大 学	五味 靖 (248)
	(4-67) オゾン処理におけるオゾン適正注入率の検討	沖縄県企業局	金城麻希 (250)
	(4-68) 猪名川浄水場オゾン処理施設における溶存オゾンの挙動	阪神水道企業団	大谷真巳 (252)
	(4-69) 常用自家発電設備排熱による排オゾン処理の調査研究	東京都水道局	奥村一雄 (254)

第4会場／名古屋国際会議場2号館2階224会議室

〔導・送・配水部門（配水調整関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
12時45分～14時30分	(5-1) 山形市における総合水運用管理システム	山形市水道部	高橋孝治 (324)
	(5-2) 統轄的配水池運用システムの導入	東京都水道局	松葉香奈 (326)
	(5-3) 送水エネルギー有効利用による低コスト配水コントロール	岸和田市水道局	山川茂明 (328)
	(5-4) 省エネルギーを目指した配水圧力制御システム	福山市水道局	半田裕貴 (330)
	(5-5) 渇水時の管網解析と減圧給水制御シミュレーション	日立製作所	福本 恭 (332)
	(5-6) SCE-UA 法を用いた配水管網のバルブによる最適圧力制御に関する考察	九州大学	久野祐輔 (334)
	(5-7) Simplex 法による配水管網時間係数の同定	武蔵工業大学	早川雄一朗 (336)

〔導・送・配水部門（管路関係①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
14時15分～35時5分	(5-8) 水道施設計画への GA 手法の適用に関する一考察	東京都立大学	古川唯一 (338)
	(5-9) 管網内オンライン情報と管網解析の連携による配水支援技術の提案	明 電 舎	島崎弘志 (340)
	(5-10) 地震時における配水幹線等の被害予測及びその対応の調査研究	名古屋市上下水道局	林 哲 矢 (342)
	(5-11) 小口径耐震継手ダクタイル管路の一体化長さに関する研究	日本ダクタイル鉄管協会	原 毅 史 (344)

〔導・送・配水部門（管路関係②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
15時16分～40時40分	(5-12) 水道マッピングシステムと連動した設計積算 CAD システム	さいたま市水道部	塚越勝己 (346)
	(5-13) 配水ブロック評価における管網診断と更新管路優先順位選定の一方策	横須賀市水道局	宮川昭吾 (348)
	(5-14) 水道用鋼管曲管の地盤変状に対する耐震安全性	日本水道鋼管協会	小池 武 (350)
	(5-15) ダクタイル鋳鉄管外面特殊塗装の耐食性の検証	徳島市水道局	井村敏二 (352)

第5会場／名古屋国際会議場2号館3階234会議室

〔機械・電気・計装部門（情報システム関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
12時13分～45時45分	(7-1) 配水水質自動監視装置の設置	京都市水道局	笹原研司 (480)
	(7-2) 水運用システム更新	横須賀市水道局	原 繁 樹 (482)
	(7-3) ネットワーク対応 WEB 監視システム構築	横 河 電 機	佐々木 竜 治 (484)
	(7-4) 地域情報ネットワークを利用した広域監視システム	東 芝	沼田一男 (486)

〔機械・電気・計装部門（新エネルギー・技術開発関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
13時50分～15時20分	(7-5) 高濃度次亜塩素酸ナトリウムの自家生成による水素燃料電池の研究	横浜市水道局	蒲谷昌好 (488)
	(7-6) 環境とコストを配慮した氷蓄熱空調システム	横浜市水道局	飯岡宏之 (490)
	(7-7) 千苅浄水場における小水力発電等の新エネルギー導入	神戸市水道局	清貞久男 (492)
	(7-8) 尼崎浄水場コージェネレーションシステム導入に関する技術評価	阪神水道企業団	浦川比呂志 (494)
	(7-9) 管路網更新のための流方向計の開発	フジテコム	平林裕司 (496)
	(7-10) 次亜塩素酸ナトリウム等腐食性薬液を貯蔵する全チタン製円筒式薬品貯蔵槽の開発	日本水道協会	佐藤敬一 (498)

〔機械・電気・計装部門（施設管理関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
15時25分～16時55分	(7-11) ポンプ設備における固体伝搬音の一考察	荏原製作所	松田道昭 (500)
	(7-12) 幹線電動弁の整備における信頼性向上策	大阪市水道局	木村昭博 (502)
	(7-13) 緩速汙過方式浄水場における自動制御システムの開発	東京都水道局	荒谷弘基 (504)
	(7-14) 浄水施設の非定常運転における運転支援システムの適用	横 河 電 機	長谷川 好 一 (506)
	(7-15) フィールドデータに基づく浄水場の信頼性と保全性解析 (V) -水道プラント稼働初期の故障発生状況-	兵庫県企業庁	武市久仁彦 (508)
	(7-16) 上水道設備等の異常対策支援システム	西 川 計 測 社	恵一郎 (510)

第6会場/名古屋国際会議場2号館3階232~233会議室

〔計画部門（需要予測・水量関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
12時45分 ～ 14時30分	(2-1) 将来推計人口の変更に伴う水道事業計画の見直し	札幌市水道局	森 尚 人 (52)
	(2-2) GIS土地利用情報を用いた配水ブロック別水需要予測手法の検討	管 総 研	横 尾 真 子 (54)
	(2-3) 使用目的別水量実測からみた時間変動特性の将来予測	立 命 館 大 学	吉 村 敬 介 (56)
	(2-4) 生活用原単位予測のためのアンケート調査結果報告	千葉県水道局	幡 谷 繁 (58)
	(2-5) 一般家庭における用途別水使用量(Ⅲ)	大阪市水道局	山 西 修 (60)
	(2-6) 生活用原単位と年齢別人口構成との相関に関する一考察	神奈川県企業庁	若 林 広 晃 (62)
	(2-7) 同一家庭の生活構造変化と水需要特性の把握	立 命 館 大 学	佐 伯 健 (64)

〔計画部門（施設整備関係①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
14時35分 ～ 16時5分	(2-8) 維持管理政策に着目した水道システムの改善効果の計測モデル	鳥 取 大 学	廣 瀬 友 和 (66)
	(2-9) 神戸水道の耐震化事業における費用対効果	神戸市水道局	光 平 真 紀 (68)
	(2-10) 浄水施設の機能診断手法の開発とその応用	水道技術研究センター	西 川 佳 弘 (70)
	(2-11) 大阪府水道事業将来構想	大阪府水道部	大 木 誠 (72)
	(2-12) 大阪府営水エネルギー利用の計画事例	岸和田市水道局	橋 本 光 義 (74)
	(2-13) 受水圧力を利用した小水力発電設備の導入	岸和田市水道局	平 野 豊 (76)

〔計画部門（施設整備関係②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
16時17分 ～ 17時10分	(2-14) 水道施設の有効利用（サクシュコトニ川復元への利用）	札幌市水道局	及 川 公 志 (78)
	(2-15) 綾瀬浄水場外周整備におけるPC壁体の設計	神奈川県内団 広域水道企業団	杉 山 桂 (80)
	(2-16) 布引ダム堤体補強工事における水源と景観の保全	神戸市水道局	松 田 康 孝 (82)
	(2-17) 浄水場構造物に対する膨張コンクリートの適用事例—コンクリートのひび割れ抑制効果実証試験—	奈良県水道局	久 世 正 一 (84)

〔第2日目 5月15日（木）午前〕

第1会場/名古屋国際会議場1号館4階141~142会議室

〔水質部門（調査関係—給水栓水）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時 ～ 10時	(8-18) 鉛管対策のためのpH調整試行に伴うTHMと鉛濃度等の挙動	堺市水道局	田 中 功 (548)
	(8-19) 水中の化学物質による残留塩素消費予測モデル	名古屋市上下水道局	杉 本 智 美 (550)
	(8-20) 市内配水過程における高度浄水処理水の残留塩素の挙動	大阪市水道局	瀧 上 知 弘 (552)
	(8-21) 水道水における同化性有機炭素の調査	阪神水道企業団	宮 川 徹 也 (554)

〔水質部門（試験方法関係等①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時15分 ～ 11時20分	(8-22) DPD法による残留塩素測定における妨害反応	広島県企業局	温 井 信 聡 (556)
	(8-23) 全有機塩素と全有機臭素の分離定量	京 都 大 学	越 後 信 哉 (558)
	(8-24) 市販臭化水素酸を用いたポストカラム法による臭素酸イオンの測定と浄水中のその由来	横浜市水道局	関 口 恵 美 (560)
	(8-25) SPME-GCMS法による有機スズ化合物の分析方法	愛知県企業庁	下 元 紀 俊 (562)
	(8-26) 水道水中の有機ハロゲン系消毒副生成物の一斉分析	愛知県衛生研究所	猪 飼 誉 友 (564)

〔水質部門（試験方法関係等②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
11時25分 ～ 12時40分	(8-27) 水中のVOCsのP&T-GC/MS法による迅速分析法	ジーエルサイエンス	今 中 努 志 (566)
	(8-28) SPME-GCMS法によるかび臭物質測定と生ぐさ臭指標物質及びトリハロメタンとの同時分析	広島県企業局	小 島 洋 治 (568)
	(8-29) GC/MSによる水道水中のフェノール及び塩素化フェノール分析法に関する研究	兵庫県立健康環境科学 研 究 セ ン タ ー	川 元 達 彦 (570)
	(8-30) 空中散布農薬の一斉分析方法の検討	埼玉県企業局	寺 中 郁 夫 (572)
	(8-31) 固相抽出-GC/MS法によるゴルフ場農薬測定におけるマトリックス効果の低減	名古屋市上下水道局	奥 村 学 (574)

第2会場/名古屋国際会議場1号館3階131~134会議室

〔浄水部門（凝集・沈澱関係④）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時 ～ 10時15分	(4-15) 酸注入における浄水効果	神奈川県内団 広域水道企業団	飯 島 達 也 (146)
	(4-16) 硫酸注入による原水pH調整	明 電 舎	関 竜 也 (148)
	(4-17) フロック形成攪拌方式の効率化に関する調査(Ⅰ)—噴流攪拌固液分離装置(JMS)による処理性検討—	大阪市水道局	瀧 川 典 一 (150)
	(4-18) フロック形成攪拌方式の効率化に関する調査(Ⅱ)—噴流攪拌固液分離装置(JMS)の流体解析—	ク ボ タ	榊 原 孝 志 (152)
	(4-19) 横流式沈澱池の数値シミュレーション—濁質粒子密度の影響—	武蔵工業大学	内 村 伸 久 (154)

〔浄水部門（膜処理関係①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時20分 ～ 12時5分	(4-20) 濁度変動を伴う原水に対する大孔径膜の運転性能と実施施設の運転報告	水道機工	長 屋 光 広 (156)
	(4-21) 大容量MF膜ろ過設備の運転状況	水道機工	古 屋 弘 幸 (158)
	(4-22) 浄水処理後段におけるセラミック膜の適用性の検討	日本ガイシ	金 谷 新 志 郎 (160)
	(4-23) 新しいケーシング収納方式セラミック膜による浄水処理	ク ボ タ	北 川 雅 之 (162)
	(4-24) 大容量UF膜を用いた膜ろ過運転の検討	神鋼バンテック	長谷川 雅 宏 (164)
	(4-25) 大規模浄水場への大型膜ユニット/システムの適用に関する研究	三菱レイヨン	竹 田 哲 (166)
	(4-26) 高フラックス型UF膜による膜利用型浄水設備の高効率化	新日本製鐵	辻 本 涉 (168)

第3会場/名古屋国際会議場4号館3階431~432会議室

〔浄水部門（その他処理関係①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時 10時 30分	(4-70) 水道原水への油流入事故を想定した粉末活性炭処理に関する検討	荏 原 製 作 所	神 宮 美 香 (256)
	(4-71) ノニルフェノールエトキシレート活性炭による競合吸着特性	岐 阜 大 学	衣 斐 武 宣 (258)
	(4-72) カビ臭原因物質に対する取水場での前々塩素処理と前凝集の効果	北 九 州 市 水 道 局	原 口 公 子 (260)
	(4-73) 凝集剤によるヒ素の処理特性	日 水 コ ン	岸 野 加 州 (262)
	(4-74) 流動床式晶析軟化法による硬度低減	宮古島上水道企業団	嘉 島 常 夫 (264)
	(4-75) 白金電極を用いた消毒システム開発	東 京 農 工 大 学	子 安 真 吾 (266)

〔浄水部門（その他処理関係②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時 35分 11時 50分	(4-76) ゼオライトによる吸着と次亜ハロゲン酸による脱窒を利用したアンモニア処理技術	三 菱 電 機	長谷川 佳 孝 (268)
	(4-77) 酸化チタンを用いた太陽光光分解法の浄水処理への応用 (Ⅲ)	北 九 州 市 環 境 科 学 研 究 所	奥 村 裕 司 (270)
	(4-78) 六甲山湧水とウラン酸処理施設	神 戸 市 水 道 局	鈴 木 勉 (272)
	(4-79) 風送塩が浄水処理に与える影響調査	沖 縄 県 企 業 局	塩 川 敦 司 (274)
	(4-80) 簡便なトリハロメタン予測式の構築手法とその応用例	新 潟 市 水 道 局	川 瀬 悦 郎 (276)

第4会場/名古屋国際会議場2号館2階224会議室

〔導・送・配水部門（管路関係③）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時 10時 15分	(5-16) 電気防食による鋼管管路の延命と費用対効果	横 須 賀 市 水 道 局	濱 崎 喜 健 (354)
	(5-17) 埋設環境の腐食度による管路危険度の相対評価	神 戸 市 水 道 局	山 本 久 五 (356)
	(5-18) 被覆材管内装着工法 (INS 工法) の設計手法に関する考察	新 日 本 製 鐵	柴 田 俊 次 郎 (358)
	(5-19) 大口径管路におけるモルタルライニングの実績と評価	阪 神 水 道 企 業 団	幸 英 量 (360)
	(5-20) ホースライニング施工管の耐震性に関する研究 (Ⅱ)	日 本 ホ ー ス ラ イ ニ ン グ 協 会	惣 川 卓 治 (362)

〔導・送・配水部門（管路関係④）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時 11時 20分 35分	(5-21) 伸縮機能を持ったバルブの施工性評価	前 澤 工 業	長谷部 健 次 (364)
	(5-22) 埋設用メタルシートバタフライ弁の開発	ク ボ タ	塚 原 尚 起 (366)
	(5-23) 減圧弁の維持管理	広 島 市 水 道 局	中 島 尊 正 (368)
	(5-24) 減圧弁の水圧変動対策	広 島 市 水 道 局	岡 野 徹 昭 (370)
	(5-25) 仕切弁等のキー改造による操作性向上	神 戸 市 水 道 局	長 谷 祐 一 (372)

〔導・送・配水部門（管路関係⑤）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
11時 12時 40分 45分	(5-26) 新川激甚災害対策事業に伴う大治水管橋の補強工事	名古屋市上下水道局	遠 藤 正 明 (374)
	(5-27) 通水後30年を経過した江戸川放水路水管橋の詳細点検結果と対策	千 葉 県 水 道 局	堀 江 良 次 (376)
	(5-28) 水道用硬質塩化ビニル管路の詳細診断法に関する調査研究	水道技術研究センター	堀 田 文 夫 (378)
	(5-29) 破壊靱性値測定における信頼性向上に関する研究	旭 有 機 材 工 業	大 山 博 史 (380)

第5会場/名古屋国際会議場2号館3階234会議室

〔給水装置部門（計量器関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時 10時 15分	(6-1) 水使用量実態調査システムの開発	東 京 都 水 道 局	乾 剛 (440)
	(6-2) 直結加圧給水装置の給水パターンによる省エネルギーへの一考察	石 垣	遠 藤 智 己 (442)
	(6-3) 水道用メータユニットの機能と安全性の考察	タ ブ チ	加 藤 真 一 (444)
	(6-4) メータ交換における老朽給水管補強技術の調査研究	東 京 都 水 道 局	大 澤 則 夫 (446)
	(6-5) 大型メータボックスの設計に関する一考察—大型鉄蓋の採用に関する報告—	防 府 市 水 道 局	上 野 忠 彦 (448)

〔給水装置部門（材料関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時 20分 11時 50分	(6-6) 循環型社会における給水材料	名古屋市上下水道局	山 本 直 弘 (450)
	(6-7) 水道用ポリエチレン二層管の耐塩素水性	日本ポリエチレンパイプ工業会	早 川 洋 司 (452)
	(6-8) 架橋ポリエチレン管における凍結予防・解凍システムの研究	前 澤 給 装 工 業	中 村 誠 也 (454)
	(6-9) 水道配水用ポリエチレン管サドル付分水栓及び穿孔機に関する研究	日 邦 バ ル プ	渡 辺 隆 雄 (456)
	(6-10) ポリエチレン管非開削工法の検討	札 幌 市 水 道 局	鎌 田 寿 子 (458)
	(6-11) 配管材としての銅が <i>Legionella pneumophila</i> に対して及ぼす抗菌性の評価	日 本 銅 セ ン タ ー	荻 原 進 (460)

第6会場/名古屋国際会議場2号館3階232~233会議室

〔計画部門（環境対策関係・その他）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時 10時 15分	(2-18) 水道分野における廃棄物等の発生量と再利用の実態調査	水道技術研究センター	岸 俊 幸 (86)
	(2-19) 上下水道施設と病原微生物感染リスクの関連	日本上下水道設計	岩 竹 貴 則 (88)
	(2-20) ISO14001規格に基づく環境マネジメントシステムの構築	岡 山 市 水 道 局	西 井 保 (90)
	(2-21) 利用者の水道水摂取傾向に与える水源の影響	武 蔵 工 業 大 学	長 岡 裕 (92)

〔事務部門（経営・計画関係①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時5分 ～ 11時35分	(1-1) 千葉県営水道事業の経営分析（Ⅰ） －総合的な分析－	千葉県水道局	渡 辺 一 夫（2）
	(1-2) 千葉県営水道事業の経営分析（Ⅱ）－鉛給水管単 独更新事業の経営への影響に関する考察－	千葉県水道局	荒 井 一（4）
	(1-3) 府営水道における自己資本の充実	大阪府水道部	港 陽 治（6）
	(1-4) 簡易水道事業のケーススタディによる分析結果	水道技術研究センター	有 吉 寛 記（8）
	(1-5) 淡路島における水道事業の一元化	淡路広域水道企業団	坂 本 敦 司（10）
	(1-6) ペイオフ解禁と資金運用	大阪市水道局	小 林 元 彦（12）

〔第2日目 5月15日（木）午後〕

第1会場／名古屋国際会議場1号館4階141～142会議室

〔水質部門（試験方法関係等③）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
13時20分 ～ 14時35分	(8-32) イオントラップ型 GC-MS/MS 法による農薬測定	福岡県南 広域水道企業団	井 上 剛（576）
	(8-33) HPLC/PDA 検出器/蛍光検出器による農薬9種一 斉分析法の検討	岡山市水道局	木 村 美 紀（578）
	(8-34) アクリルアミドモノマーの高感度分析方法及び凝 集処理における挙動に関する検討	国立保健医療科学院	島 崎 大（580）
	(8-35) LC-MS によるアクリルアミドの検査方法の検討 及びその実態調査	川崎市水道局	桐 村 ひでみ（582）
	(8-36) 1,2-ブタジエン、1,3-ブタジエン、酢酸ビニルモ ノマー及び N,N-ジメチルアニリンの分析方法	国立医薬品食品 衛生研究所	西 村 哲 治（584）

〔水質部門（環境ホルモン関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
14時40分 ～ 15時55分	(8-37) LC/MS によるノニルフェノール、ビスフェノ ール A 及び17β-エストロジオールの一斉分析法	福岡市水道局	阿 部 勇 一（586）
	(8-38) ヒメダカビテロジェニンアッセイを用いた塩素置 換 bisphenol-A のエストロゲン様作用の評価	北海道大学	田 畑 彰 久（588）
	(8-39) 環境水中のエストロゲン様活性低減のための塩素 処理条件の検討	北海道大学	伊 藤 和 徳（590）
	(8-40) 内分泌攪乱化学物質及び同作用の浄水処理性	大阪府水道部	五十嵐 小百合（592）
	(8-41) 遠賀川水系におけるアルキルフェノール類の実態 調査	北九州市 環境科学研究所	武 富 真（594）

〔水質部門（微生物・生物関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
16時 ～ 17時15分	(8-42) 溶存酸素を指標としたクロノアンペロメトリーに よる一般細菌数の簡易計測	大阪工業大学	笠 原 伸 介（596）
	(8-43) 送配水管内における微生物の増殖特性に及ぼす リンの影響	大阪工業大学	前 田 和 孝（598）
	(8-44) 水道原水における大腸菌及び大腸菌群の実態調査	京都市水道局	野 村 隆 夫（600）
	(8-45) 種特異的 PCR によるかび臭産生及び非産生藍藻 類の同定	新エネルギー産業技術 総合開発機構	及 川 栄 作（602）
	(8-46) 湖沼の植物性プランクトンが持つ表面電荷特性	千葉工業大学	瀧 和 夫（604）

第2会場／名古屋国際会議場1号館3階131～134会議室

〔浄水部門（膜処理関係②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
13時 ～ 14時30分	(4-27) 藻類による膜汚染とその対策の検討	前 澤 工 業	大久保 慎 二（170）
	(4-28) UF 膜汚過設備の高流束化とコスト低減効果	前 澤 工 業	山 西 陽 介（172）
	(4-29) 高透水型 UF 膜モジュールの開発	栗 田 工 業	松 溪 直 樹（174）
	(4-30) マンガン汚染膜の高速薬品洗浄方法の探索	荏 原 製 作 所	貝 谷 吉 英（176）
	(4-31) 前凝集沈澱とオゾン酸化によるオゾン耐性膜での 膜運転性及び透過水水質向上に関する研究	北海道大学	李 相 協（178）
	(4-32) オゾン耐性膜による高効率高度処理（Ⅵ）	旭 化 成	橋 野 昌 年（180）

〔浄水部門（膜処理関係③）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
14時15分 ～ 15時50分	(4-33) 中間オゾン・活性炭流動層システムへの膜処理技 術の適用に関する調査（Ⅱ） －実施化に向けた前提条件の整理－	阪神水道企業団	村 上 恵 一（182）
	(4-34) 越生町膜汚過施設薬品洗浄結果報告	栗 田 工 業	太 田 喜 興（184）
	(4-35) 全量汚過方式における膜破断検知実験	特 別 会 員	山 口 太 秀（186）
	(4-36) 膜破断検出装置の実機稼働報告	東 芝	村 山 清 一（188）
	(4-37) ナノ汚過における微量化学物質の吸着・溶出過程 の解析	八 戸 工 業 大 学	鈴 木 拓 也（190）

〔浄水部門（膜処理関係④）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
15時17分 ～ 16時10分	(4-38) ナノ汚過によるアンチモン処理に及ぼす共存物質 の影響	国立保健医療科学院	黒 木 隆（192）
	(4-39) 晶析軟化法を前処理とした低圧逆浸透膜による浄 水処理	西原環境テクノロジー	田 中 宏 樹（194）
	(4-40) 湖水を水源とする高度浄水処理	理 水 化 学	中 村 陽 一（196）
	(4-41) かん水を原水とする浄水処理システムの検討（Ⅰ） －前処理装置の運転状況－	オ ル ガ ノ	宮ノ下 友 明（198）
16時10分 ～ 16時40分	(4-42) かん水を原水とする浄水処理システムの検討（Ⅱ） －逆浸透法と電気透析法の比較－	オ ル ガ ノ	若 林 和 幸（200）

第3会場／名古屋国際会議場4号館3階431～432会議室

〔浄水部門（汚過関係①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
13時 ～ 14時15分	(4-81) シネドラアクスによる汚過閉塞	君津広域水道企業団	林 豊（278）
	(4-82) 浄水処理維持管理における生物障害の評価ガイド ライン作成のための基礎的研究（Ⅱ）－珪藻類 <i>Synedra acus</i> を用いた汚過閉塞障害のモデル解析－	名古屋市上下水道局	山 下 和 雄（280）
	(4-83) 既設の急速汚過池の高効率化を目的とした汚過実 験	近 畿 大 学	小 池 浩 哲（282）
	(4-84) 複層汚過池における高効率汚過の実証	横浜市水道局	松 川 悟（284）
	(4-85) 高分子凝集剤等を使用した浄水処理実証実験（Ⅲ）	荏 原 製 作 所	安 永 利 幸（286）

〔浄水部門（汙過関係②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
14時15分 20時35分	(4-86) 低濁度原水を対象とした直接汙過法による浄水処理実験	静岡市水道局	赤 星 順 一 (288)
	(4-87) 低濁水の直接汙過における粒子分離の高効率化	北 見 工 業 大 学	山 田 直 之 (290)
	(4-88) 低速スタート汙過法による低濁度原水処理の効率化	北 見 工 業 大 学	張 一 憲 (292)
	(4-89) 尼崎浄水場における汙過施設の稼働状況	阪 神 水 道 企 業 団 体	浅 谷 孔 一 (294)
	(4-90) 上水試験用微粒子計の検出方式に関する標準化の検討	リ オ ン	西 本 道 伸 (296)

〔浄水部門（汙過関係③）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
15時16分 40時40分	(4-91) 微粒子計による粒子数計測の際の可測濃度上限値	東 北 工 業 大 学	長 尾 崇 史 (298)
	(4-92) マンガン砂による有害金属の除去効果	東 京 都 水 道 局	谷 道 裕 司 (300)
	(4-93) マンガン砂のヒ素吸着能力に関する基礎研究	北 海 道 大 学	林 健 司 (302)
	(4-94) 砂汙過池における溶存マンガン除去	大 阪 府 水 道 部	中 尾 信 弘 (304)

第4会場／名古屋国際会議場2号館2階224会議室

〔導・送・配水部門（管路関係⑥）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
13時14分 20時20分	(5-30) 多層バリアパイプ（3層構造パイプ）の実用化に関する研究	川 崎 市 水 道 局	川 下 勝 夫 (382)
	(5-31) 水道配水用ポリエチレン管用スクイズオフ工法に関する研究	水道用ポリエチレンパイプシステム研究会	加 藤 晋 一 (384)
	(5-32) 水道配水用ポリエチレン管EFサドル付分水栓の開発	積 水 化 学 工 業	大 野 宗 久 (386)
	(5-33) 水道配水用ポリエチレン管EF継手の清掃溶剤の留意点	三 菱 樹 脂	朝 倉 啓 介 (388)

〔導・送・配水部門（管路関係⑦）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
14時15分 25時25分	(5-34) 非開削による既設管更新技術の研究	日 本 鋼 管 工 事	西 野 健 太 郎 (390)
	(5-35) 鋳鉄管非開削破砕更新工法の研究	ク ボ タ	横 溝 貴 司 (392)
	(5-36) 配水管布設替方法の変更	横 浜 市 水 道 局	川 戸 一 男 (394)
	(5-37) シールド工事における可燃性ガスの安全対策	東 京 都 水 道 局	安 西 崇 博 (396)

〔導・送・配水部門（管路関係⑧）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
15時16分 30時45分	(5-38) 琵琶湖第2疏水連絡トンネルの建設	京 都 市 水 道 局	角 南 雅 人 (398)
	(5-39) 大容量送水管工事（1工区）の施工	神 戸 市 水 道 局	藤 枝 篤 志 (400)
	(5-40) 不排水による管内夾雑物排出工法	大 成 機 工	堀 川 剛 (402)
	(5-41) 配水管内の夾雑物双方向排出装置の設置	コ ス モ 工 機	梅 田 輝 弥 (404)
	(5-42) 送水管人孔蓋修繕における工法	岐 阜 県 事 業 経 営 局	森 田 茂 樹 (406)

第5会場／名古屋国際会議場2号館3階234会議室

〔給水装置部門（鉛関係①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
13時14分 14時5分	(6-12) トータルバランスに優れた鉛レス銅合金の開発	キ ッ ツ	黒 瀬 一 人 (462)
	(6-13) ICP-MSによる鉛レス給水器具浸出液のビスマスの調査	日 本 水 道 協 会	波 田 野 哲 也 (464)
	(6-14) 鉛給水管からの鉛の溶出に関する基礎的検討	国立保健医療科学院	赤 井 寿 充 (466)
	(6-15) 鉛管からの鉛溶出に関する考察	茨 城 大 学	丹 治 輝 (468)

〔給水装置部門（鉛関係②・その他）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
14時15分 5時5分	(6-16) 鉛製給水管からの溶出鉛低減化に関する調査実験	東 京 都 水 道 局	橋 本 左 右 (470)
	(6-17) 水道メータ鉛浸出対応表面改質処理に関する一考察	リコーエレクトロニクス	北 出 弘 幸 (472)
	(6-18) 浄水器等による水質汚染リスクに関する検討	国立保健医療科学院	古 賀 誠 一 (474)
	(6-19) 水電解消毒装置による残留塩素濃度維持の検討	富 士 電 機	石 岡 久 道 (476)

〔災害対策部門（震災対策関係①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
15時16分 10時10分	(9-1) 災害に係わる危機管理対策	札 幌 市 水 道 局	谷 口 誠 一 (624)
	(9-2) 災害情報システムの構築	大 阪 市 水 道 局	亀 山 政 一 (626)
	(9-3) 配水ブロックシステムの耐震性の定量評価	大 阪 市 水 道 局	松 井 光 弘 (628)
	(9-4) 炭素繊維シートによる高架水槽の耐震補強	北千葉広域水道企業団	田 北 健 之 (630)

〔災害対策部門（震災対策関係②・その他）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
16時17分 15時15分	(9-5) サイホン遮断法を用いる2段階制御法による緊急時水確保システム付配水池	ベ ル テ ク ノ 技 研	後 藤 道 雄 (632)
	(9-6) 応急給水における受水者の水の運搬距離と疲労に関する実験	鳥 取 大 学	板 谷 真 悟 (634)
	(9-7) 水道原水監視における広域的アプローチに関する研究— Extensive Sensing Map の検討—	東 芝	金 子 政 雄 (636)
	(9-8) 市民が行政と協働して行う湧水対応—止水栓の絞り込みによる自主減圧・自主断水—	高 松 市 水 道 局	森 本 啓 三 (638)

第6会場／名古屋国際会議場2号館3階232～233会議室

〔事務部門（経営・計画関係②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
12時45分～14時30分	(1-7) 水道事業者間における広域的な水融通のあり方	東京都水道局	伊藤正則(14)
	(1-8) これからの社会基盤施設としての水道施設整備(Ⅲ)ー事業コンベ方式による浄水池上部空間の有効活用(2)ー	阪神水道企業団	小川康之(16)
	(1-9) 設計施工一括発注・総合評価落札方式による配水池築造工事	岡山市水道局	石井恒至(18)
	(1-10) 東京都水道局環境会計についての考察	東京都水道局	山田朋美(20)
	(1-11) 自治体水源地構想	横浜市水道局	星名純子(22)
	(1-12) 局内LANシステムの導入	広島市水道局	漆谷美德(24)
	(1-13) 水道局情報ネットワークシステム構築ーマッピングシステムを利用した高信頼・高利便性ネットワーク構築ー	秋田市水道局	若狭謙栄(26)

〔事務部門（営業・業務関係①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
14時15分～15時35分	(1-14) 未納料金対策ー料金収入確保のためにー	東京都水道局	田代正広(28)
	(1-15) 滞納整理業務の民間(法人)委託における現状と課題	横須賀市水道局	深見大輔(30)
	(1-16) 新しいVSP方式システムによる徴収業務の広域処理	第一環境	種本廣之(32)
	(1-17) 生活に密着したお客様サービスの提供を目指して	東京都水道局	有原正俊(34)

〔事務部門（営業・業務関係②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
15時16分～16時40分	(1-18) 水道事業における損害賠償の考え方	大阪市水道局	片岡誠司(36)
	(1-19) 貯水槽水道への関与	横浜市水道局	二見友久(38)
	(1-20) 水道事業における顧客情報と公文書開示制度	東京都水道局	長谷和美(40)
	(1-21) 横浜市水道局インフォメーションセンターの設立	横浜市水道局	平沼正博(42)

〔事務部門（人事・広報関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
16時17分～17時45分	(1-22) ホームページを活用した広報「バーチャル浄水場」	大阪府水道部	増田哲也(44)
	(1-23) 名古屋市における木曽川上下流交流事業	名古屋市上下水道局	大崎陽子(46)
	(1-24) 「お客様サービス」意識向上のために「研修」が果たす役割	名古屋市上下水道局	田中正哉(48)

〔5月16日(金)午前〕

第1会場／名古屋国際会議場1号館4階141～142会議室

〔水質部門（クリプトスポリジウム・試験方法関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時～10時15分	(8-47) クリプトスポリジウムの試験方法(Ⅰ)ー試料の濃縮方法に関する検討ー	大阪府水道部	向井聖二(606)
	(8-48) クリプトスポリジウムの試験方法(Ⅱ)ー染色と精度管理方法に関する検討ー	兵庫県企業庁	井上亘(608)
	(8-49) クリプトスポリジウムの試験方法(Ⅲ)ー新しい試験方法の概要ー	北千葉広域水道企業団	大嶋剛(610)
	(8-50) クリプト試験における砂鉄粒の影響と携帯型中空糸膜濃縮装置の実用化試験	宮崎市水道局	工藤信廣(612)
	(8-51) クリプトスポリジウムのDNA/RNA検出法の開発	東和科学	小林美佐子(614)

〔水質部門（浄水処理関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時11分～11時20分	(8-52) かび臭物質自動測定器(かび臭モニター)の運用	東京都水道局	舟洞健二(616)
	(8-53) 水道水源における残留農薬の監視プライオリティーに関する研究	横浜市水道局	相澤貴子(618)
	(8-54) 活性炭処理性を考慮した水道における残留農薬の評価	国立保健医療科学院	鎌田素之(620)

第2会場／名古屋国際会議場1号館3階131～134会議室

〔浄水部門（排水処理関係①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時～10時	(4-43) 柏井浄水場排水処理施設の更新	千葉県水道局	宮崎勇悦(202)
	(4-44) 西長沢浄水場排水処理運転実績報告	神奈川県内田広域水道企業団	森崇裕(204)
	(4-45) 超高速凝集沈澱装置による膜逆洗排水処理及び汚泥濃縮実験	オルガノ	鳥羽裕一郎(206)
	(4-46) 高分子凝集剤を用いた凝集沈澱汚泥の膜濃縮法に関する検討	日立プラント建設	大西真人(208)

〔浄水部門（排水処理関係②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時11分～11時5分	(4-47) 凍結融解脱水へのCGS排熱利用冷凍機の適用検討	富士電機	山口幹昌(210)
	(4-48) 浄水発生土のリン酸吸着に関する基礎的検討(Ⅱ)	荏原製作所	野村淳一(212)
	(4-49) 浄水発生土の下水処理プロセスへの適用とリン除去効果に関する一考察	東京都立大学	荒井康裕(214)
	(4-50) 排水処理の一括集約処理	京都市水道局	片山勅男(216)

〔浄水部門（排水処理関係③）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
11時12分～12時10分	(4-51) 浄水発生汚泥再利用に関する調査	八戸圏域水道企業団	内宮靖隆(218)
	(4-52) 水熱合成反応による浄水発生土からのゼオライト製造法の基礎検討	日立製作所	芳賀鉄郎(220)
	(4-53) 浄水場発生土の水熱固化試験	石垣	西原康昭(222)
	(4-54) 浄水ケーキを用いた林道法面の緑化	東京都水道局	佐藤一昭(224)

第3会場/名古屋国際会議場4号館3階431~432会議室

〔浄水部門（汙過関係④）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時 10時	(4-95) 鉄バクテリアを利用した自然汙過方式による地下水の処理	神 鋼 パ ン テ ッ ク	森 藤 昭 博 (306)
	(4-96) 緩速汙過池を本来の生物処理に	高 松 市 水 道 局	池 添 幸 男 (308)
	(4-97) 長毛汙布汙過機の上水処理への適用	呉 羽 テ ク ノ エ ン ジ	白 土 晶 浩 (310)
	(4-98) 湖沼水処理におけるハイブリッドバネフィルター汙過法の特性解析	千 葉 工 業 大 学	村 上 和 仁 (312)

〔浄水部門（生物処理関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時 11時 5分 5分	(4-99) メタルハニカムフィルターを用いた微小生物捕捉	新 日 本 製 鐵	木 村 春 男 (314)
	(4-100) 金属吸着能を有する藻類由来有機物 (Algal Organic Matter: AOM) の分離に関する研究	東 北 大 学	高 荒 智 子 (316)
	(4-101) <i>Phormidium tenue</i> の各活性段階における攪拌強度 (G 値) による形状	東 北 工 業 大 学	佐 藤 正 浩 (318)
	(4-102) 塩素処理が藻類の沈降速度に与える影響	東 北 工 業 大 学	鷲 出 貴 (320)

第4会場/名古屋国際会議場2号館2階224会議室

〔導・送・配水部門（漏水防止関係・配水池関係①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時 10時	(5-43) 水圧制御による漏水抑制対策の定量的分析 - GA を用いた最適制御計画 -	東 京 都 立 大 学	工 藤 大 (408)
	(5-44) 漏水の早期発見に基づく防止水量算定方法の必要性についての考察	仙 台 市 水 道 局	藤 澤 正 人 (410)
	(5-45) 配水池有効容量の弾力的な設定基準	い わ き 市 水 道 局	則 政 康 三 (412)
	(5-46) ジャッキアップ工法による鋼製配水池の施工	綾 部 市 上 下 水 道 部	四 方 俊 明 (414)

〔導・送・配水部門（情報処理関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時 5分 11時 50分	(5-51) 管路情報システムの導入と緊急時の対応	大 阪 府 水 道 部	向 井 隆 裕 (424)
	(5-52) マッピング基図の合理的な更新	横 須 賀 市 水 道 局	山 田 宏 幸 (426)
	(5-53) マッピングシステムの PC 化・Web 化	横 須 賀 市 水 道 局	有 馬 広 泰 (428)
	(5-54) より身近なマッピングシステムへの工夫	各 務 原 市 水 道 部	服 部 則 仁 (430)
	(5-55) マッピングシステムを利用した配水管布設路線選定支援システム	さいたま市水道部	武 笠 倫 之 (432)
	(5-56) 小口径配水管の埋設深度と管内水温との相関関係	大 牟 田 市 企 業 局	西 原 博 徳 (434)
	(5-57) 水道管路施設の現況把握手法に関する一考察	フ ジ 地 中 情 報	永 田 浩 一 (436)

第5会場/名古屋国際会議場2号館3階234会議室

〔英語部門（全般①）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時 10時	(10-1) The Approach to Results Measurement and Evaluating Training Programs - 横浜市水道局における研修効果測定と評価の取り組み -	横 浜 市 水 道 局	種 村 麻 衣 子 (642)
	(10-2) Evaluation Study on Water Supply Project by Questionnaire Survey of Water Usage in the Philippines - 水道整備プロジェクト評価のためのフィリピン水利用アンケート調査 -	立 命 館 大 学	服 部 容 子 (644)
	(10-3) The Defluoridation Support for Practical Implementation at Local Level in Tanzania - タンザニア村落地域へのフッ素除去装置の実用化に向けて -	日 本 テ ク ノ	松 井 康 弘 (646)
	(10-4) Control of Water Quality in Transmission & Distribution Process - 送配水過程における水質維持管理 -	名古屋市上下水道局	桂 川 博 志 (648)

〔英語部門（全般②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時 5分 10時 50分	(10-5) A Study on <i>Cryptosporidium</i> Oocysts Removal by Coagulation and Rapid Sand Filtration; An Application of the Fluorescence Labeled Oocysts - 蛍光標識オーシストを用いた凝集沈澱・砂汙過処理によるクリプトスポリジウムの除去に関する調査 -	大 阪 市 水 道 局	稲 田 康 志 (650)
	(10-6) Settling Pretreatment and UF Membrane; A Case Study for a 34,000 m ³ /day Plant - 沈澱と UF 膜処理; プラント (34,000m ³ /日) でのケーススタディー -	オンデオデグレモン	Frédéric Colas (652)
	(10-7) Effect of Hydraulic Conditions on Clarifier Performance - 沈澱池の効率に及ぼす水理条件の影響 -	Seoul Development Institute	Hang-Moon Cho (654)

〔導・送・配水部門（配水池関係②）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時 55分 11時 55分	(5-47) 水道施設用防食ライニング材の耐久性に関する基礎的研究	安 部 工 業 所	堅 田 茂 昌 (416)
	(5-48) 水道施設で使用される金属材料の耐久性に関する基礎的研究	安 部 工 業 所	井 上 浩 之 (418)
	(5-49) 新杭頭接合工法による配水池の耐震性向上策の開発	ク ボ タ	石 原 孝 浩 (420)
	(5-50) 既設コンクリート製配水池の更生工法に関する研究 - ステンレス鋼板による直張り補修更生工法の開発に関する報告 -	J F E エ ン ジ ニ ア リ ン グ	足 立 明 (422)

〔水源・取水部門（水源関係）〕

時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
9時 ～ 10時 30分	(3-1) 水道水源でのアウトドアスポーツへの対応 —「水道水源での水質汚染のおそれのある行為な どへの対応指針」の制定—	札幌市水道局	萩原民雄(96)
	(3-2) 雨水利用と水源開発	名古屋市上下水道局	高倉俊夫(98)
	(3-3) 水源ダムの循環曝気能力の低下に伴う水質への影響	東京都立大学	山崎公子(100)
	(3-4) ダム湖におけるシネドラアクス発生	君津広域水道企業団	土屋博一(102)
	(3-5) 河川表流水質の将来予測—市川水系—	姫路工業大学	村上光正(104)
	(3-6) 淀川流域環境マップの作成	大阪府水道部	小笠原和雄(106)

〔水源・取水部門（取水関係）〕

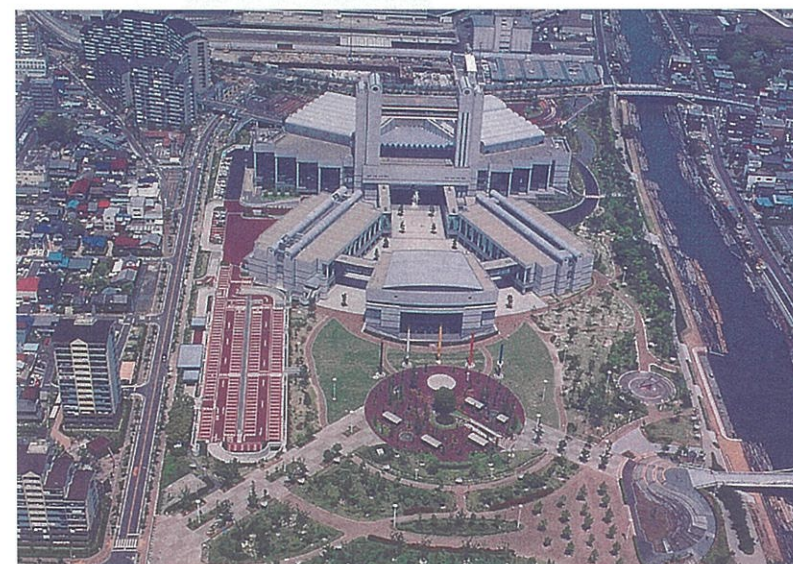
時間	題 名	勤 務 先	発 表 者
10時11分 ～ 11時35分	(3-7) 高強度な鉄筋を使用した沈砂地の検討	千葉県水道局	高田大輔(108)
	(3-8) 海底下への長距離推進施工	機動建設工業	北島邦浩(110)
	(3-9) 水源水質悪化時の取水制御システム	三菱電機	古川誠司(112)
	(3-10) 取水停止時の運用計画	神奈川県内 広域水道企業団	海野義明(114)



表紙解説

名古屋城付近から名古屋駅方面（南西方向）を望む。手前にあるのは、かつての尾張徳川家62万石の居城、名古屋城。名古屋の街は、名古屋城とともに歩んだ歴史と伝統の上に築かれている。そして、その先の、中部の玄関口名古屋駅にひとときわ高くそびえる二つの塔はJRセントラルタワーズ（2000年3月完成）。最上階の「パノラマハウス」からは、よく晴れた日には伊勢湾や南アルプスなどの雄大なパノラマを望むことができる。名古屋のシンボルとして今ではすっかり定着した。

今と昔が織りなすハーモニー。二つのシンボルは名古屋の街を象徴している。



研究発表会場
「名古屋国際会議場」
全景

